2021

近畿双松会報

—2021（令和3）年度—

島根県立松江中学校
島根県立松江高等学校
島根県立松江北高等学校

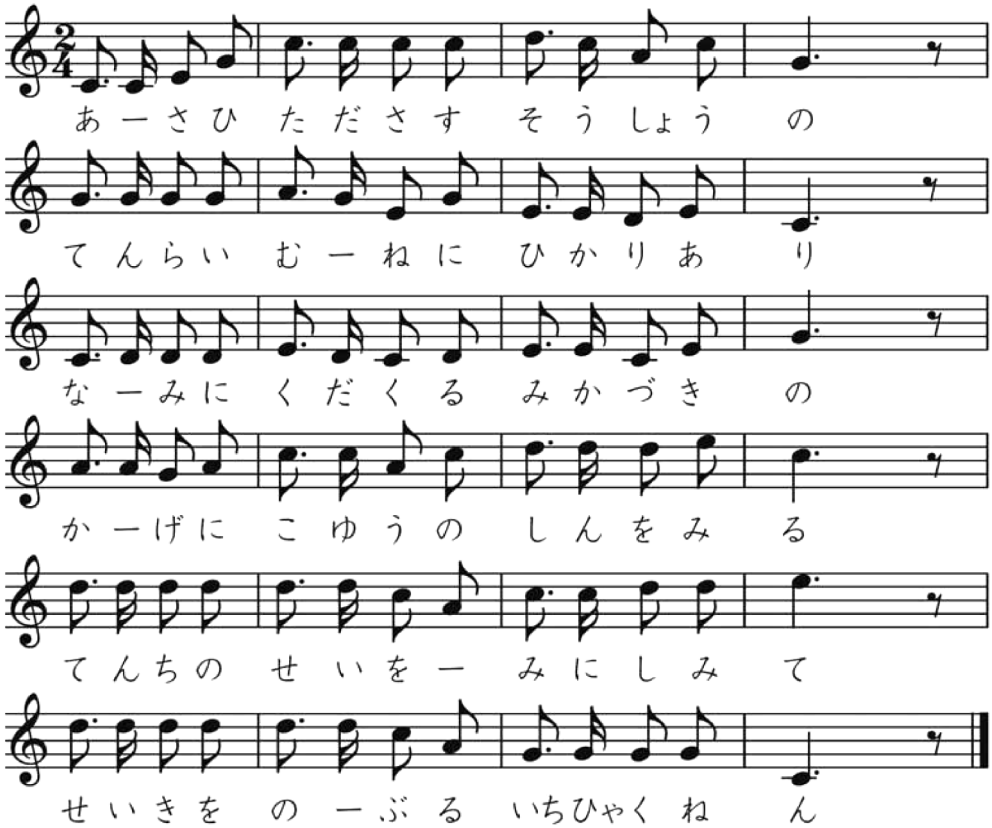
北高生にエール!（赤山校舎：松江北高校正門）

若かりし日のわが夢ぞ　そこに狭霧ろふ（佐藤春夫）
西川津校舎 (1950 ～ 78) 跡地記念碑

撮影：いずれも 2022（令和 4）年 3 月 22 日

あさひたださす（赤山健児の歌）

西村房太郎　作詞
岩佐万次郎　作曲



一、
朝暾（あさひ）直刺す双松の　天籟胸に光あり
浪に砕くる三日月の　影に古雄の真をみる
天地の精を身にしめて　正気を舒ぶる壱百年

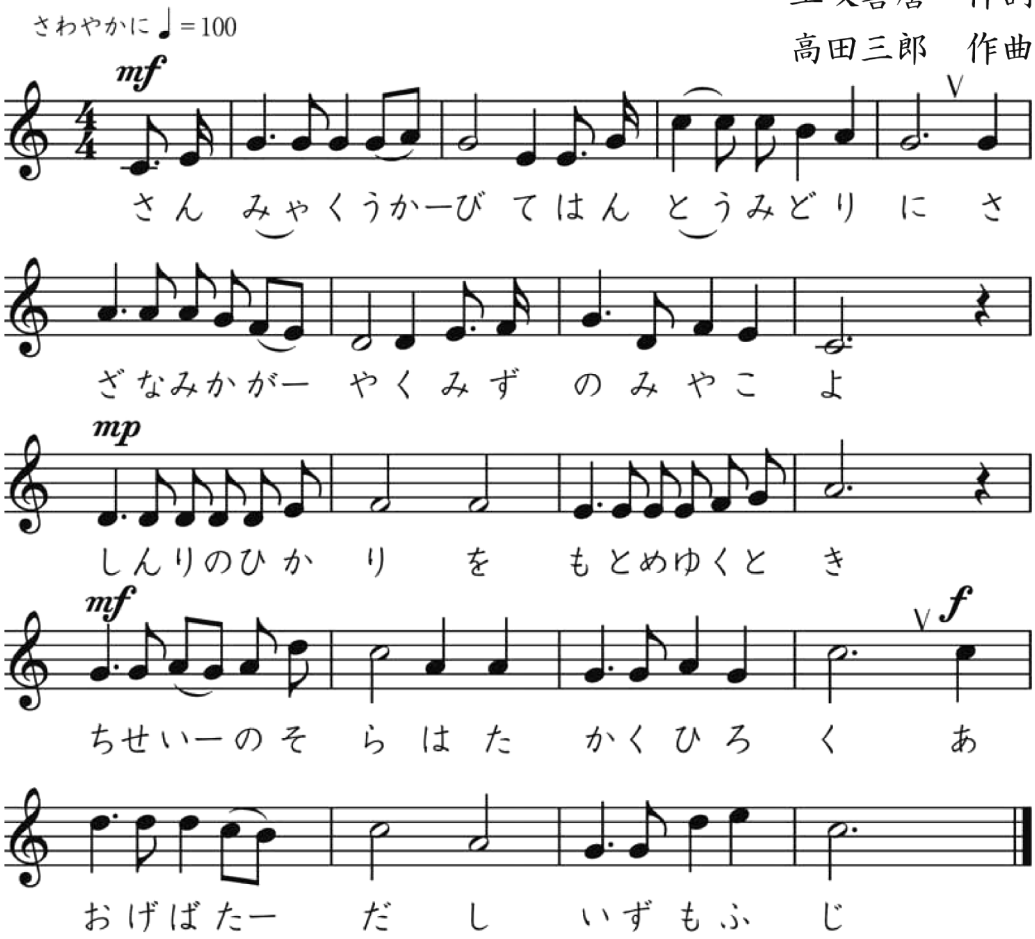
二、
瘴煙罩（こ）むる椰子の下　月に嘯く夕あり
氷雪鎖す丘の上　北斗に吟ずる晨あり
万里の風に浪搏ちて　大鵬の翼揮へよや

三、
嗚呼剛健と質実と　心の楯に執り持てば
悪魔（サタン）の征矢も身にたたず　高く搴（かか）ぐる我旗の
霊光迷路（メーズ）の闇を射て　理想の郷をてらすなり

四、
稜威輝く日の本の　国の礎さし固め
東洋平和を保つべき　使命を負へる我等なり
責務は重く身は軽し　起てや赤山健男児

さんみゃくうかびて（松江高・松江北高等学校校歌）

土岐善麿　作詞
高田三郎　作曲



一、
山脈浮かびて　半島みどりに
さざなみかがやく　水の都よ
真理のひかりを　求めゆくとき
知性の空は　高くひろく
仰げば正し　出雲富士

二、
郷土の歴史を　深くもたたへて
川風すがしく　渡す大橋
千鳥の城あと　街はさかえて
希望も新た　かくて常に
自由の道を　進むべし

三、
健康ひとしく　いそしみはげみて
世界の人たる　誇りにたたん
友情かわらず　胸をひらきて
こぞれりわれら　若く強く
松江北高　ここにあり

2021（令和３）年度
近畿双松会報

目　次

あさひたださす（赤山健児の歌）……2
さんみゃくうかびて（松江高等学校・松江北高等学校校歌）……3

ご挨拶
近畿双松会会長　松本 耕司（16期）……5
双松会会長　金津 任紀（16期）……6
松江北高等学校校長　常松　徹……7

2021（令和３）年度　松江北高校十大ニュース……8
2021（令和３）年度　近畿双松会　活動一覧……10
2021（令和３）年度　活動報告……11
2021（令和３）年度　ＳＮＳによる情報発信と実績……13
近畿双松会からのお願い
メールマガジンと LINE ＠を受信下さい……14
2020（令和２）年度 近畿双松会 会計・監査報告……15
2021（令和３）年度 近畿双松会 会計・監査報告……16
2022.1.1 時点 近畿双松会 役員……17
近畿双松会　会則改訂（抜粋）……18
2021（令和２）年度「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名……19
追悼　物故会員……20
和田亮介様（高１期・第五代当会会長）ご逝去の追悼の辞……21
＜ご紹介＞近畿地域での「松江会・安来会・県人会」について……22
会員近況報告（卒業期順）……23
特別寄稿
松江北高校創立 145 周年記念双松会総会
講演「島根創生と大学改革」（要約紹介）　清原 正義（16期）……34
特別寄稿
北高「世界の人たれ講演会」で講演
「ベンチャースピリットが世界を変える」　安達 宏昭（43期）……38
自由投稿
「秋の歌」　堀江眞三人（２期）……40
「しめ縄の話　あれこれ」　佐和田 丸（10期）……41
「コロナ下にも楽しみあり」　押田 良樹（11期）……43
「丹波黒豆を作って 20 年」　湯川 好満（11期）……45
「言葉の力こそが生きる力」　山本 輝夫（12期）……46
「力士の給与」　梅木隆志（16期）……47
「山陰最後の殿様 定安と慶徳」　松本 耕司（16期）……48
「地域医療に携わった目から見た新型コロナワクチン等の新薬開発」　森藤 哲章（16期）……49
「みんなちがって みんないい」　池田喜美代（19期）……52
「認知症にならないためには？ －父の場合－ 」　山嵜麻里子（20期）……53
広　告……54
編集後記……55

ご挨拶

近畿双松会 会長
松 本 耕 司（16 期）

会員の皆様には、足掛け 3 年にも及ぶ新型コロナ感染禍の中をいかがお過ごしでしょうか。大きな影響をお受けになられました皆様には心からお見舞を申し上げます。

このような状況下ですが、この会報はお互いの絆の確認になることを願い、今年も発刊させていただきました。お手元に届く頃には状況が改善されていることを祈るばかりでございます。

さて、その中で近畿双松会も「総会・懇親会」を初め、ほとんどすべての行事を残念ながら二年連続で中止せざるをえなくなりましたが、この間にも、①将来に備えての役員改選と、②緊急事態にも対応できる会則の改訂については、何とか結論を出すことができました。

また、会員間の重要な情報ツールである SNS の発信も一年を通して続けることができました。

加えて、感染が下火になった際に、幸運にも宝塚歌劇鑑賞会を開催でき、ご参加者のお元気なお顔を拝見し、本当に嬉しく存じました。

以上が本年度の活動のすべてと言ってもいい状況でしたが、特に SNS にご参加の皆様とは折々の会話もでき、この取り組みが今後の活動の要になることも実感いたしました。皆様には是非ご登録をお願いする次第です。（P14 掲載）

いよいよ迎える 2022 年度にはどのような活動が行えるのか？　特に 11 月に予定する三年ぶりの総会懇親会は是非開催したいと願っておりますが、皆様のご意見をいただきながら、慎重に検討していきたいと考えております。

また、来年 2023 年度は、当会も設立 65 周年を迎えますが、この新型コロナ禍で社会も人も生活も、価値観も人生観も大きく変わってきていることと思われますので、それも踏まえながら運営していきたいと考えているところです。

いずれにしましても、当会当面の第一の目標は「中堅・若手世代の参加の拡大」に尽きると考えますので、そこに焦点を絞って活動をしてまいります。また、それに合わせ、当会の運営も徐々にお若い世代の役員の皆様にバトンタッチをしていきたいと考えておりますので、会員の皆様には、引き続きましてご理解、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

目を松江に転じれば、母校は昨年設立 145 周年を迎え、人口減や少子化への対応、松江市内入学区域の自由化などへの否応もない対応を迫られていますが、母校も双松会もさまざまな努力を続けておられます。

当会も母校や郷土の発展のために、できる協力はしていかなければと考えておりますので、ご理解のほどをよろしくお願い申し上げます。

「郷土」ということに関しては、ここ近畿の、私が会長をお受けしている近畿松江会や、その他のふるさと会、また近畿島根県人会などでも、会員の高齢化や減少が大きな課題となっていることをお聞きすることが増えてまいりました。当会としても他人事にはできない面もございますので、こちらにも目を向けていただければ真に幸いに存じます。（P22 掲載）

最後になりましたが、会員の皆様にはどうぞ引き続きご自愛賜わり、お元気でお過ごしくださいますよう心からお祈り申し上げます。

また、ご多用のところご挨拶を頂戴いたしました金津仁紀双松会会長様、常松徹松江北高校校長様には心から御礼を申し上げ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶

双松会 会長
金 津 任 紀（16 期）

桜花爛漫と咲き誇り春たけなわとなりました。近畿双松会の皆さまには、お元気にお過ごしのこととお喜びを申し上げます。平素は、何かとご高配を賜り厚く御礼申し上げます。一昨年から全世界で猛威をふるい日常生活や社会経済活動に大きな混乱をもたらしている新型コロナウイルスは、本原稿を執筆中の現在もオミクロン株による第６波の最中であります。本稿が皆さまに読まれる頃には、何とか落ち着いて元の日常が少しずつでも戻っていることを願うものであります。皆さまには長い間失礼しておりますので、本来ならば久しぶりにそちらへお伺いし、近況を語り合いたいところですが、事情ご賢察の上、お許しをいただきたく存じます。

母校松江北高は、昨年学校創立 145 周年を迎え、11 月に規模を大幅に縮小しオンライン参加も交えながら記念式典を開催しました。記念事業の実施にあたり多くのご支援ご協力を賜りましたことにつきまして、本稿をお借りし厚く御礼申し上げます。約一世紀半の長きにわたって先輩諸氏のご努力によってつくられた伝統と歴史を糧に、母校のさらなる発展を祈る次第であります。

さて、近畿双松会はこれまで多岐にわたる事業を通じて会員の親睦と融和をはかられ会員同士の結束と一体感を強固にされてきたことに対しまして深く敬意を表します。それだけに、すべてに三密を避けることが求められる今の世情においては、悶々とした気持ちで事業の運営に苦慮されていることと推察いたします。

私も今まで出来ていたことが出来ない状況の中で、いかに生きるべきか自問自答を続ける毎日ですが、結局たどり着くところは、心の持ちようだとつくづく感じています。人生に起こるあらゆる出来事をありのままに受け入れ、感謝の心を抱きつつ日々ベストを尽くして精一杯生きる「陽転思考」こそが人間力を高めることにつながるのではないかと考えるからです。厳しい時勢ではありますが、どうか自己肯定感をもって前向きに生きていきましょう。コロナ禍で「あれもできない、これもできない」と委縮するばかりではなく「何ができるのか」を考え、自分なりの幸せや生きがいを見つける機会にしたいものです。

ご承知のとおり、コロナ禍をきっかけに人とのつきあい方が見直されてきました。ひと昔前までは「飲みニケーション」は同僚と親交を深め、本音が聞ける絶好の機会だったわけですが、最近の調査結果では若い人のみならず「不要」だと思っている人が多くなっているようです。様々な交流の機会を通じ同士の絆を育んで来られた皆さんの中にも寂しいと感じている人も多いことでしょう。

私も思いは同じですが、ふと気づくと、飲み会に限らずいろいろな行事が行われなくなっても困っていない、支障はない、今までは一体何だったのか、ということは結構あります。それなら、これからも今のやり方でいいのではないか、という意見も当然あります。しかし、仕事や生活には大きな問題はなくても、やはり我々は「心をもった人間」です。表面的な形だけの関係ではなく、人の縁や絆を大切にする生き方をしたいと思います。人と人を遠ざけるこの厄介な病気は、人間関係が希薄化しつつある現代社会において、一層心の豊かさや充実感をむしばんでいます。そんな世の中だからこそ、今必要なことは「より多く」「より大きく」という価値観ではない、人間らしい「幸せ」を生み出すことではないでしょうか。

双松会は同窓の絆を大切に母校の発展に貢献していく親睦・支援団体として、会員の心の糸をつなぐ役割を今後とも果たしていきたいと考えています。今は、じっと耐えコロナ禍の終息を待ち、そして、皆さまとの再会を楽しみにしたいと思います。皆さまにおかれましては、くれぐれもご自愛いただきますようお祈りいたします。

おわりに、近畿双松会の益々のご発展、並びに会員の皆さまのご健勝ご活躍をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶
松江北高等学校 校長
常松　徹

(2022,3,14)

先月末の厳しい寒波も過ぎて日ごとに暖かさも増し、この赤山の地にも春の訪れを感じられるようになりました。近畿双松会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今月の１日には普通科第 73 回・理数科第 52 回卒業証書授与式を挙行いたしました。今年度もコロナ禍ということで、在校生・来賓の参列のない卒業式となりました。実に三年連続でした。

短い高校生活のうちの２年間がコロナ禍で思うような活動ができなかった卒業生たちでしたが、しかし、274 名が、呼名の際にはとても気持ちの良い返事をし、北高を無事に巣立っていきました。

私事ですが、この３月末をもって定年退職を迎えます。38 年前、伝統と歴史のある本校で新規採用教員として教員生活をスタートし、手本とすべき先輩の先生方のもとで学んだ４年間は、教員としての土台を築くことができた貴重な時間でした。

40 代で 16 年ぶりに北高に帰ってきて、重要な仕事を任されながら経験を積み重ね、ミドルリーダーとしての自覚とスキルを身につけることができました。

そして３年前、校長として北高に三度目となる赴任を経験し、間も無く定年退職を迎えることができることはこの上ない喜びです。

延べ 15 年間にわたる勤務において、充実した日々を送ることができたこの北高に、今は感謝の気持ちしかありません。

特に校長として勤務したこの３年間では、さまざまな形でご支援くださる卒業生の皆様の存在を大変心強く思いました。

私は本校の卒業生ではありませんが、退職後も微力ながら北高の益々の発展に寄与できればと思います。本当にありがとうございました。

＜進路概況＞　※過年度卒を含む（3 月 10 日現在）

・国公立大学　150 人
　医学部医学科　６人（国公立５人、私立１人）
　難関大学　18 人
　（東京大１人、京都大４人、大阪大４人、一橋大１人、神戸大４人、北海道大２人、東北大１人）
・私立大学　285 人　※延べ人数、現役生のみ
　（早稲田・慶応　６人、関関同立　19 人）

＜部活動の成績＞

・女子ボート部・・第 34 回全国高等学校選抜ボート大会出場権獲得
・男子登山部・・・第 61 回中国高等学校登山大会団体第５位
・囲碁部・・・・・中国高校囲碁選手権大会男子個人４位（1 年木戸）
・百人一首かるた部・・中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会、島根県 A チームの一員として団体優勝
　※第 17 回全国高校生かるたグランプリ出場権獲得
・美術部・・・・・島根県高校美術展入選
　※全国高等学校総合文化祭東京大会に出品（２年佐々木・２年武田）
・吹奏楽部・・・・全日本アンサンブルコンテスト県大会金賞（金管八重奏）
　※中国大会出場権を獲得
・「科学の甲子園」全国大会島根県予選　第１位
　※科学の甲子園全国大会出場権を獲得

ご定年の常松校長（右）をおねぎらい (2022,3,22)

2021(令和３) 年度　松江北高校十大ニュース

（注）この記事は北高教頭・双松会事務局長の伊藤尚子先生（40 期）に特別制作のご協力をいただきました。

▼令和３年３月卒業生の進路

国公立大学に 188 名（既卒者を含む）が合格しました。難関 10 大学 (北海道大・東北大・東京大・東京工業大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・神戸大・九州大) の合格者は 26 名で、そのうち京都大には５名の現役合格がありました。医学部 17 名、私立大学は延べ 332 名の合格者数がありました。コロナ禍の影響も受けてか、現役の地元大学への進学率が高かったのも特徴的な年でした。

▼令和３年度入学生から松江市内通学区撤廃

令和３年度入学生から普通科における松江市内通学区が撤廃となりました。この年に高校入試を受験する市内の中学３年生はもともと人数が少なかったこともあり、残念ながら本校は大きく定員を割り、１クラス 32 ～３名となりました。入学式はコロナ禍で新入生のみでとり行う形でのスタートとなりましたが、新入生もこの１年で、すっかり北高生となり、いろいろなことに前向きに取り組む姿勢が見られます。

▼部活動の健闘!

体育系の部活動では、２年ぶりに開催された６月の県総体で男女総合３位となり、夏に行われたインターハイにボート部、登山部（男女)、弓道部、陸上競技部などが出場しました。文化系の部活動は８月に和歌山で開催された全国高等学校総合文化祭へ箏曲部、囲碁・将棋部、百人一首かるた部、美術部、自然科学部など多くの部活が参加しました。それ以外でも県内はもちろん、中国・全国大会に多くの競技で参加があり、健闘しました。

▼北高魅力化事業その１　グランドデザイン決定!

６月より本校および県のホームページに掲載しています。グランドデザインとは、各学校の目指すところが一目でわかるように１枚紙にまとめたものです。本校のデザインは３年生の生徒によるものです。上部のマーブル模様は北高生の個性が混じり合う様子を表していて、決してみんなが同じ色に染まることなく、それぞれの個性を持ちながら全体に溶け込み合う感じを表現したそうです。

▼北高魅力化事業その２　ＰＲ編

今年度入学生の定員が大きく割れたことで、本校の魅力をきちんと地域に伝えていたのか振り返り、今年度はじめて業者による学校紹介ＤＶＤを作成し、６月から各中学校へ配布、学校説明会等で使用しました。ロングバージョン（18 分半程度）とショートバージョン（３分半程度）があり、９月にリニューアルした北高のホームページにも載せています。また、６月には島根県民会館中ホールで中学３年生の保護者を対象に学校説明会を開きました。参加した保護者からは「北高での様々な取組がよくわかった」「これまでのイメージが変わった」などと好評でした。

▼北高魅力化事業その３　行事編

７月に２年生普通科の希望者 20 名が主体的な進路選択に向けて自らの視野や価値観を広げるために、１泊２日で津和野研修を行いました。過疎化の進む中山間地域の医療、地域資源を生かした持続可能な産業などの体験学習、県外生を含む津和野高校生との交流などまたとない貴

重な経験をしました。また、３年ぶりに 12 月に本校でエンパワーメントプログラム（５日間を英語のみで過ごす語学研修）を希望者対象に実施しました。40 名の参加希望者があり、参加した生徒たちの５日間の変容ぶりには目を見張るものがありました。

▼７月豪雨　大きな被害

７月６日から大雨により土砂災害警戒情報が出され、松江市内全域に警戒レベル４（避難指示）が発令される大きな豪雨がありました。ＪＲや一畑電鉄、市営バスなどの公共交通機関のストップ、北高近辺の道路、第２グラウンドなどの冠水･陥没など登下校に影響が出ました。学校は７日 (水) ～９日 (金) までの３日間を臨時休校としました。

▼８月の台風で桜倒木

８月に松江を襲った台風９号の大風で、職員駐輪場の西側、倉庫の北側にあった大きな桜の木が倒木しました。この桜は、この赤山の地に咲く桜の中で、例年最も早く開花する桜と言われていました。特にけが人や他に大きな被害がなかったのが不幸中の幸いでした。

▼紅陵祭「颯（はやて）～あかやまに新たな風を～」

９月には恒例の紅陵祭（学園祭）を無事に実施することができました。コロナ禍での開催２年目になりましたが、これまでの伝統（全体講演、１年生のデコ、２年のクラス出し物、３年ページェント、体育祭など）を守りつつ、今しかできない、今だからこそできる学園祭となりました。最終日には後夜祭を行い、最後までしっかり楽しむことができました。

▼校内ＩＣＴ化進む

校内のＩＣＴの整備が進んでいます。教員も生徒も授業や伝達、アンケート集計など積極的に端末等の活用をしています。このおかげで７月豪雨の臨時休校中でも学校と生徒がオンラインでつながったり、連絡事項を提示したりすることができました。また、夏休み中に「未来スクールステーション」という校内テレビ放送システムを導入しました。これにより全員が体育館等へ集まれないコロナ禍でも、各教室にいながらのリアルタイム集会や録画済み連絡事項などの一斉伝達がスムーズになりました。

２０２１（令和3）年度　近畿双松会　活動一覧

本年度も新型コロナ感染禍のため、二年連続の総会中止をはじめ殆どの行事を中止せざるをえない一年となりました。その中で将来に備えて、①次期役員体制の整備、②会則の改訂、また情報提供としての③ SNS 発信の継続、④年次会報の発刊をし、行事の中では⑤宝塚歌劇鑑賞会を開催することができました。年間の活動一覧は下記に、活動報告は次ページ以降に掲載します。

＜※編集注：下記★印は新型コロナ禍の影響を受けた行事＞

◆２０２１（令和３）年＜２０２０（令和２）年度＞

１月			★事務局会議＆有志新年会を中止
	７日	（木）	★第二次「緊急事態宣言発令」 ⇒京阪神は２月末日で解除
	１７日	（日）	★第４回宝塚歌劇鑑賞会（希望 23 名、於：宝塚大劇場） ⇒直前中止
	２５日	（月）	双松会（松江）のホームページ（HP）開設準備作業に協力開始
			★令和２年度新年役員懇親会　⇒延期
２月	２８日	（日）	2019 年度会計監査実施
３月	１日	（月）	北高卒業生に双松会入会式で「メールアドレス登録」を要請
			★第 13 回落語鑑賞会（於：天満天神繁昌亭） ⇒延期
	２３日	（火）	北高「世界の人たれ講演会」で、当会 安達宏昭幹事（43 期）が講演
			＜テーマ＞：「ベンチャースピリットが世界を変える」
	３１日	（水）	令和２年度「会報」の発行
	〃	〃	令和２年会計年度終了

◆２０２１（令和３）年度

４月	１日	（木）	令和３年度事業・会計開始
	１０日	（土）	★令和２年度「会報」と令和３年度「事業方針（中止方向）」発送
５月	１日	（土）	役員新体制発足（新しく幹事６名の就任）
	２８日	（金）	第５代会長和田亮介様（1 期）ご葬儀（松江）に弔電と供花をお届け
６月	１６日	（水）	★「今後の運営と７月文楽鑑賞会の中止」について、HP に掲載・周知
７月			（松江）双松会 HP の運用開始
			（松江）令和３年度版 同窓名簿「双松」（5 年に一度）発刊
	下旬～		今後の役員体制についての意見交換開始（10 月下旬まで数次）
９月	２９日	（木）	★総会・懇親会中止、その他お知らせを全会員に発送
１０月	下旬		今後の役員体制についての意見交換終了
１１月	１３日	（土）	★（松江）創立 145 周年記念双松会総会を縮小して開催（祝電送信）
	２０日	（土）	臨時「顧問・会長・副会長会議」を開催し、以下二点を協議
			①「次期役員体制」、②「緊急事態下での運営を可能にする会則の改訂」
１２月	４日	（土）	上記二点に関し、全役員にメール、郵送で稟議願いを発送
	１９日	（日）	〃　役員全員の賛成を得て議決
	２５日	（土）	〃　１月１日付けで発足、運用開始を HP と SNS で会員に告知

◆２０２２（令和４）年＜２０２１（令和３）年度＞

１月	１日	（土）	「新役員体制」発足、ならびに「新会則」の運用開始。
			令和３年度「会報」の編集開始
	１６日	（日）	第４回宝塚歌劇鑑賞会（34 名参加、於：宝塚大劇場）
	２３日	（日）	新旧「顧問・会長・副会長」会議開催
２月	２７日	（日）	★令和３年度新年役員懇親会　⇒延期（４月以降開催）を決定
	２８日	（月）	北高卒業生に双松会入会式で「メールアドレス登録」を要請
３月	１３日	（日）	2020・2021 年度会計監査実施
			★第 13 回落語鑑賞会（於：天満天神繁昌亭） ⇒（４月以降に延期）
	３１日	（木）	令和３年度「会報」の発行
	〃	〃	令和３年度会計年度終了

※ＨＰアクセス件数；2022.3.15 現在　５４，６０８件（前年＋４，３０３件）

前ページ「活動一覧」のとおり、4 月に何とか令和 2 年度会報を発刊し、事業の開催は暫く感染の様子を見させていただくとのお知らせをして新年度が始まったが、9 月には総会懇親会も中止するという決定をし、結局「宝塚歌劇鑑賞会」を除き、すべての会合、行事を中止とする一年となった。

この間、感染状況に一喜一憂しながら取り組みをすすめたが、その中から、主な活動を 5 点に絞り、下記に報告する。

（1）次期「役員体制」の発足

本来であれば、2020 年度総会で任期を迎えていた役員の改選が、総会の中止で延び延びになっていたので、まずは 5 月に最小限の範囲で役員の退任、就任（新幹事 6 名）だけをおこなった。

続いて、それを基に、この時期にこそ将来への体制の整備を図るべきと考え、7 月から 10 月にかけて個別の意見交換を重ね、11 月 20 日（土）に臨時「顧問・会長・副会長会議」を開催し、新しく顧問 2 名、副会長 4 名、事務局長 1 名、監事 1 名、常任幹事 4 名をお願いする成案を作成した。

これを全役員に諮り、年末にはご賛同の議決を得たので、メールマガジンやホームページで周知、公表し、1 月 1 日から発足することとした。

これにより、新型コロナ感染終息後の活動再開に備える体制ができたものと考えている。

※「新役員体制」⇒ 17 ページ参照

（2）緊急事態下での運営を可能にする「会則の改訂」

上記役員体制を検討する中で、現行会則では最終の意思決定は総会で承認されることとなっており、今回の総会を開催できないほどの緊急事態下では意思決定に不具合があることがわかった。

そこで、緊急事態下では役員会の意思決定をもって総会の承認とみなすこともできるとする会則の改訂をすすめ、上記（1）と同様、全役員のご賛同を得て、1 月 1 日付けで新会則を制定した。

これにより、今後は緊急事態下でも迅速な意思決定をすることが可能になったと考えている。

※「会則改訂（抜粋）」⇒ 18 ページ参照

（3）ＳＮＳ（メールマガジン、LINE ＠）による発信と、ホームページの充実の継続

今回のような対面機会がほぼゼロになった中で、2020 年 1 月から開始したメールマガジンと LINE ＠、そしてホームページの役割は大変重要で、ご担当の役員には大変な努力をいただいた。

その評価については、発信数は勿論、会員の読者各位から多くの好意的な反応をいただいていることから、内容においても所期の成果を着実に上げることができたと考えている。

一方、SNS の読者数の伸びはまだまだ不十分であり、今後もさまざまな機会をとらえ、また新しい取り組みにより、会員各位の「メールアドレス登録」の呼びかけに力を注いでいく。

※「ＳＮＳ発信実績」⇒ 13 ページ参照
※「メールアドレス登録方法」⇒ 14 ページ参照

（4）「年次会報」の発刊

活動休止状態の中、また、まだまだ SNS の読者数も不十分な中、会員の絆づくりのため、「近況報告」など個人の投稿をメーンにして、この年次会報を発刊した。

（5）第 4 回「宝塚歌劇鑑賞会」の開催

厳しい感染状況も一旦収束に向かうかと思えた昨秋から年末、宝塚歌劇鑑賞会は新年 1 月を恒例としていたので、劇場側の感染防御体制も充実していることを確認し、休止していた活動を再開するにはこの行事が最適ではないかと考えた。

宝塚ファンの会員からは熱心な開催希望があることはわかっており、参加者募集に入ったらすぐに 30 名をこえるご希望があったところまでは予想通りだったが、年末からのオミクロン株感染の拡大には新年から大いに悩まされることになった。

最終的には、劇場側とも参加者各位とも入念に再三の意思確認をし、当日までの厳重な体調管理もお願いして実行することとした。結果、当日は「団体予約」で得た良い席で参加者には十分ご満足いただき、その後はどなたからも体調不良のご連絡もなく、無事に終わることができた。

その後の 2 月公演は、劇場関係者に陽性者があって公演中止となったことを聞き、私たちの運の良さに再び驚いた次第だった。

◆第4回「宝塚歌劇鑑賞会」

※日時；令和4年1月16日（日）

※場所；宝塚大劇場（月組公演）

※演目；ミュージカル・キネマ「今夜、ロマンス劇場で」原作／映画「今夜、ロマンス劇場で」©2018 フジテレビジョン ホリプロ 電通 KDDI

主演／月城かなと、海乃美月

※ショー；ジャズ・オマージュ／「FULL SWING!

※鑑賞報告／今西亜子（43・理22）

本日の月組は新トップコンビ月城かなとと海乃美月のお披露目公演で、お芝居は「今夜、ロマンス劇場で」・・。2018年に綾瀬はるか、坂口健太郎で制作された映画の宝塚バージョンです。

1960年代初頭、映画監督をめざし助監督として働く健司と、彼がひそかに思いを寄せていた古いモノクロ映画のヒロイン美雪。二人のロマンチックで切ないファンタジー恋物語です。

おきゃんなお姫様美雪に振り回される健司を、芝居に定評のある月城かなとが見事に演じていました。また「僕の王女様」というセリフや、映画の世界から現実世界に飛び出る代償として、人に触れられると消えてしまう美雪に、触れたいけど触れられない健司の手の使い方がとてもせつなくて素敵でした。

二番手の鳳月杏は1960年代の映画スターをエキセントリックに、三番手の暁千星は宝塚版オリジナルの役「大蛇丸」を個性的に演じていました。ちなみに健司の友達役を演じた風間柚乃は故夏目雅子さんの姪です。

映画版はひたすら切なかったのですが、宝塚版ではラストで健司が天寿を全うして映画の世界に美雪と入っていくところ（モノクロの映画が色をなし、そして舞踏会の場面へ）が、「タカラヅカ最高!!」と思いました。

ショーは「FULL SWING!」というジャズショー。トップの月城かなとの歌からの「フッ」というかけ声。最初からテンションが上がりました。そして鳳月杏、暁千星、風間柚乃の月組男役の魅力が十分生かされ、新生月組の勢いを感じました。娘役トップの海乃美月は何度も月城かなとと組んでいて、見ていてとても安心できるトップコンビでした。あっという間の55分間。とても元気がもらえました。

誰がいつコロナにかかってもおかしくない世の中、スターたちがコロナにかからず演じたのも奇跡、また、私たちが元気に観劇できたのも奇跡。こんな時代だからこそ、全ての出来事に感謝しなければと思いました。

以上

観劇はマスクを着用し、終了後の昼食会も当然中止とし、即、帰宅いただきましたが、帰宅後の皆様から「素晴らしかった、来年も続けて」のお声を沢山いただき、心からホッとしました。

◆参加者は下記の34名（敬称略）

神田田鶴子（2）佐々木悦子・佐藤早智子（9）押田良樹・今井洋子（11）安部正毅（13）齋藤丸子（14）松本耕司・森藤哲章（16）佐野和子・三好資子（20）大浦綾子・村田貢（22）小松久美子・西村充子・松本幸子・山口紀子（23）吉賀由紀子（24）小林宏・京子（25）前羽香江（26）井上千哉子（松江）（30）今西亜子（43・理5）

以上、会員23名、ご家族・友人11名

2021（令和3）年度　SNSによる情報発信と実績

＜メールマガジン（以下：MM）、LINE @（以下：L@）＞

新型コロナ禍で殆どの活動が止まった中、当会の将来を見据えた情報発信体制整備のため、二年目を迎えた「SNS による情報発信」は、当会会員をつなぐ「絆」として着実な実績を挙げました。

SNS 担当として取り組んでいただいた押田良樹さん（11 期・MM & HP 担当）、冨岡幸子さん（35 期・L@担当）、安達宏昭さん（43 期）には厚く御礼申し上げます。

お蔭をもって、2021 年度も下記 40 件をこえる発信をすることができ、会員の受信者も 320 名強までに至りました。今後もよりよいMM／L@の発信をめざしてまいります。

引き続き「受信者の拡大」に努めてまいりますので、ご登録がまだの方は、この機会に次ページの手続きに従い、メールアドレスを登録いただきますようお願いいたします。

＜※編集注＞MM受信の登録をされていない方は、下記配信実績の内容を近畿双松会ホームページの左列見出し「メルマガアーカイブ」からご覧になれますのでご利用ください。

＜2021 SNS 発信実績＞

No.	月 / 日	記事	No.	月 / 日	記事
2021			80	7.24	松江市内三高所からの風景動画
56	3.16	HP に令和 2 年度松江北高十大ニュースを掲載	81	8.7	故和田亮介様ご遺族から満中陰志 (ｴｯｾｲ 6 編) を頂戴
57	3.25	会員のテレビ番組出演のお知らせ	82	8.2	島根県古代文化センター歴史文化講座オンライン配信
58	3.29	松江城周辺建物の有形文化財登録について	83	8.21	「双松会会報」発刊、145 周年記念総会のお知らせ
59	4.3	雲南市永井隆記念館のリニューアルオープン	84	9.4	島根県古代文化センター講座のオンライン動画配信
60	4.11	2020（令和 2 年度）会報を発送しました	85	9.21	小泉勝是さん（14 期）所属の水彩画グループ展
61	4.14	市内学区廃止、北高普通科は定員割れスタート	86	10.6	「湖都松江」vol.42 発行のお知らせ
62	4.17	「松江城を守る会」会報発行のお知らせ	87	10.13	創立 145 周年記念総会のオンライン配信申込み
63	4.17	山陰ケーブル・・マーブル YouTube チャンネル案内	88	10.25	郷土関連テレビ番組のお知らせ
64	4.19	松江市新市長に上定昭仁氏が当選	89	10.25	1 月 16 日「宝塚歌劇鑑賞会」の参加希望者募集
65	4.28	近畿島根県人会のホームページ開設のお知らせ	90	11.1	松江城を守る会よりシンポジウム動画公開のお知らせ
66	4.30	双松会会長・副会長の褒章、叙勲受賞のお知らせ	91	11.28	ふるさと会の加入情報等についてのご案内
67	5.1	事務局から「役員新体制発足」のお知らせ	92	12.9	会報への「近況報告」ご寄稿お願い（受付け延長）
68	5.13	島根町加賀の大規模火災「義援金」のお知らせ	93	12.13	松江城大手門の復元資料について
69	5.15	小泉八雲関係番組放映のお知らせ	94	12.15	「世界の人たれ」プログラムに授業の公開配信
70	5.16	HP に 2020 年会報の会員の投稿を掲載しました	95	12.15	NHK ファミリーヒストリーのお知らせ
71	5.20	（続）HP に 2020 年会報の会員の投稿を掲載	96	12.25	（新）「役員体制」と「会則改訂」のお知らせ
72	6.7	動画「カルシュ博士の残した足跡と偉業」のご紹介	**2022**		
73	6.14	島根県関連テレビ放映のお知らせ	97	1.12	郷土関係テレビ番組のお知らせ
74	6.14	松江市からの「ふるさと納税」のお知らせ	98	1.19	北高「エンパワーメントプログラム」の報告
75	6.16	文楽鑑賞会の延期と、当会の今後の運営について	99	1.28	映画「高津川」が近畿地区で公開されます
76	6.3	郷土関連テレビ番組のお知らせ	100	1.28	第 4 回宝塚歌劇鑑賞会を開催しました
77	7.2	テレビ番組「遠くへ行きたい」に島根県が登場	101	3.2	松江北高卒業式の記事・動画の紹介
78	7.6	万葉集ゆかりの地『島根』を巡る動画のご案内	102	3.2	島根県古代文化センターの HP のリニューアル
79	7.9	『隠岐古典相撲大会』テレビ放映のお知らせ	103	3.15	映画「RAILWAYS」の TV 再放映のお知らせ

～ メールマガジン“さんみゃくうかびて”と、LINE@を受信下さい ～

近畿双松会はメールマガジン（以下MM）とLINE@（以下Ｌ@）で、総会や同好会行事、会員の活動紹介、北高やふるさと松江・島根に関する情報を配信していますので、ご参加、ご受信ください。
（MMとＬ@は上記内容の配信に限定します。）

登録されたメールアドレス等の情報は、近畿双松会の趣旨・目的にかなう内容のみに使用し、MMの運用も専門業者と契約して個人情報の管理には万全を期します。

1．メールマガジンで受信する

メールアドレスの登録が必要です。（下記いずれかで登録ください）

①ＰＣ、スマホで、近畿双松会ＨＰ（「近畿双松会」で検索）のトピックス上部の「★メールアドレスの登録をお願いします★」から登録してください。

②または、スマホのＱＲコードアプリをお持ちの方は、右記から上記のページを読み込み、所定項目を記入、送信ください。

③上記①②で登録できない場合は、ＰＣ、スマホから、下記専用アドレスを直接入力して記入、送信ください。
⇒専用（送信元）アドレス；**kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org**
※【件名】には、「メールアドレス登録」と記入。
※本文には、（必須）①お名前（旧姓）、②卒業期（卒業年）
（任意）③住所、④電話、などを記入ください。

※：スマホでメールマガジンが受信できない場合、受信拒否設定をされたままの可能性があります。
上記、専用（送信元）アドレスの受信を許容する設定にしてください。
※：スマホからの登録の方で、PCのメールもお持ちの方は、PCメールとの複数登録をおすすめします。
※：PC受信の場合、稀に「迷惑メール」に入っている可能性もありますので、チェックしてください。

2．LINE@で受信する

右記、ＱＲコードから登録ください。

MMと同一の情報はＬ@からも受信できます。
スマホでの受信が便利な方は、ぜひＬ@を利用ください。

近畿双松会
@ept2359o

※「トーク」から①お名前（旧姓）と②卒業期（卒業年）を入れて登録し、「タイムライン」で受信ください。
※「お名前、卒業期」は、必ず登録ください。

（注）MMとＬ@は、両方ご登録でも、どちらか一方でも結構です。

2020（令和2）年度近畿双松会会計決算書

２０２０（令和２）年４月１日～２０２１（令和３）年３月３１日　（単位：円）

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	1, 922, 420	◎ 支出計	609, 573
◎ 収入計	699, 000	・通信費	148, 877
		・印刷費	52, 580
		・事務費	97, 639
・令和２年度運営費支援収入	467, 000	・郵便、銀行手数料等	36, 127
・同、寄付・広告収入	232, 000		
・令和２年度総会参加費	0	・平成３１・令和１年度会報費	264, 450
・令和２年度諸行事参加費収入	0	・令和２年度総会費	0
・令和３年度役員会参加費	0	・令和２年度年度諸行事支払い	9, 900
・利子収入		・令和３年度役員会会議費	0
		◎次期繰越金	2, 011, 847
		・内訳	
		（郵便貯金振替残）	1, 831, 055
		（郵便貯金）	171, 037
		（現金）	9, 755
◎ 総合計	2, 621, 420	◎ 総合計	2, 621, 420

繰越金前年比　（＋）89, 427

上記のとおり報告いたします。

会長　松　本　耕　司　㊞

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2022（令和 4）年 3 月 13 日

監事　鶴　羽　孝　子　㊞

監事　周　藤　達　夫　㊞

2021（令和3）年度近畿双松会会計決算書

２０２１（令和３）年４月１日～２０２２（令和４）年３月３１日　（単位：円）

収入の部		支出の部	
◎ 前期繰越金	2, 011, 847	◎ 支出計	749, 200
◎ 収入計	688, 000	・通信費	226, 796
		・印刷費	131, 960
		・事務費	115, 447
・令和２年度運営費支援収入	456, 000	・郵便、銀行手数料等	34, 497
・同、寄付・広告収入	232, 000		
・令和２年度総会参加費	0	・平成３１・令和１年度会報費	240, 500
・令和２年度諸行事参加費収入	0	・令和２年度総会費	0
・令和３年度役員会参加費	0	・令和２年度年度諸行事支払い	0
・利子収入		・令和３年度役員会会議費	0
		◎次期繰越金	1, 950, 647
		・内訳	
		（郵便貯金振替残）	1, 733, 363
		（郵便貯金）	151, 037
		（現金）	66, 247
◎ 総合計	2, 699, 847	◎ 総合計	2, 699, 847

繰越金前年比　（－）61, 200

上記のとおり報告いたします。

会長　松　本　耕　司　㊞

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2022（令和４）年３月13日

監事　鶴　羽　孝　子　㊞

監事　周　藤　達　夫　㊞

近畿双松会　役員（2022（R4）. 1. 1）

2021 年 12 月 19 日役員会承認

※下線は、新しい（役）の方

役	期	氏　名
常任顧問	高 7	山 本 雅 昭
常任顧問	高 11	押 田 良 樹
顧問	高 16	梅 木 隆 志
顧問	高 20	三 好 資 子
会長	高 16	松 本 耕 司
副会長	高 23	松 本　潤
副会長	高 23	山 口 紀 子
副会長	高 24	徳 田 完 二
副会長	高 26（理 5）	松 村　聡
副会長（兼）事務局長	高 31	宍 道 弘 志
監事	高 22	鶴 羽 孝 子
監事	高 26	周 藤 達 夫
幹事	高 1	苅田運三郎
幹事	高 2	堀江眞三人
幹事	高 3	緒 形 公 士
常任幹事	高 5	山 田　稔
幹事	高 6	田 村 稔 久
常任幹事	高 7	廣 政 俶 彦
幹事	高 9	逸 見 充 宏
幹事	高 10	面 白　紘
幹事	高 11	田 中 一 男
幹事	高 12	萩 野 貫 悟
幹事	高 13	永 江 幹 雄
常任幹事	高 14	加 藤 巡 一
常任幹事	高 15	金 坂 喜 好
幹事	高 15	佐 藤 修 介
常任幹事	高 16	土 田 和 男
幹事	高 16	三 成 宏 二
常任幹事	高 17	岡　久 夫
常任幹事	高 18	小 田 一 美
幹事	高 18	石賀誠一郎
常任幹事	高 19	岩 田 一 志
幹事	高 19	池田喜美代
常任幹事	高 20	山嵜麻里子
常任幹事	高 20	渡 辺　悟
常任幹事	高 20	小数賀健二
常任幹事	高 22	村 田　貢
幹事	高 22	内 藤 善 夫
常任幹事	高 22	大 浦 綾 子
常任幹事	高 23	松 本 幸 子
幹事	高 24（理 3）	岩 間 令 道
幹事	高 24	糸 原 直 彦
幹事	高 25	小 林　宏
幹事	高 27	新宮富美子
幹事	高 27	野 口 博 也
幹事	高 29	山 本 修 司
幹事	高 30（理 9）	千 葉　潮
幹事	高 31	小 林　満
常任幹事（事務局長補佐）	高 32	浅 沼 吉 正
常任幹事	高 32	木 村 滋 樹
幹事	高 32	田 黒 公 司
幹事	高 33	柳 井 利 明
常任幹事	高 35	冨 岡 幸 子
幹事	高 36	森 口 次 郎
幹事	高 38	長谷川浩之
幹事	高 40	福 江 直 広
幹事	高 42	三 好 博 子
常任幹事	高 43	安 達 宏 昭
幹事	高 43（理 22）	今 西 亜 子

以上　59 名

近畿双松会　会則改訂（抜粋）

2022（令和４）年１月１日

＜改訂趣旨＞

今回の非常事態下では、会則どおりに「総会を開催して役員異動等の重要事項の承認する」ことができませんでした。

そこで、「役員会の議決をもって総会の承認とみなす」こともできる条項を備えることとし、役員会の議決もメール等の電磁的方法で可能となるよう、会則を一部改訂しました。

＜関係条項＞

※改訂関係条項を下記に抜粋し、改訂文章に下線を記します。

※なお、会則全文はホームページに掲載しています。

【役員会】

第８条　役員会は、第５条の役員をもって構成し、次の通り開催する。

１．会長が、毎年１月を基本として召集する。

２．役員会は、役員の選出、事業報告と決算（見込み）、事業計画と予算、会則の改訂、その他会の運営に関わる重要事項を審議する。

３．会長は、必要あるときは臨時に役員会を召集することができる。

４．役員会の議決は、会長の判断により書面表決、または電磁的方法によりおこなうことができる。

【総会】

第９条　総会は次の通り開催する。

１．通常総会は原則として毎年１１月に開催する。

２．総会には役員の選出、予算、決算、会則の改訂、その他の会務を報告し承認を受ける。

３．総会と同時に懇親会、講演会等を開催する。

４．会長は、必要あるときは役員会の承認を得て臨時総会を召集することができる。

５．やむをえぬ事情で通常総会・臨時総会が開催できない場合は、役員会の議決をもって総会の承認とみなし、直近の総会に報告するものとする。

【会則の改訂】

第１２条　この会則の改訂は、第８条の２、第９条の２で定める通り、役員会の審議を経て、総会の承認を受けなければならない。

【附則】　１．本会則は令和４年１月１日に改訂し同日付けで適用する。

（以下、略）

2021（令和3）年度「運営費支援、寄付・広告」 ご協力者 ご芳名（敬称略）

近畿双松会は有志の皆様の支援により運営しています。新型コロナウィルス禍の中を有難うございました。

（令和４年２月２５日現在）

中68期
荒銀 昌治
高1期
伊藤 雅義
宇藤二男丸
苅田運三郎
喜多川治美
和田 亮介
高2期
作野 宏
堀江眞三人
高3期
緒形 公士
小川 伸江
高4期
泉 寛治
高5期
板垣 衛武
簗 武夫
山根 徹
高6期
荻野 克彦
田村 稔久
高7期
青戸 俊夫
廣政 俶彦
山本 雅昭
泉 桂子
高8期
黒田 牧夫
山崎 杲
高9期
神 仁人
影山 武男
澄川 光成
田中 英明
伴 稔也
木村八重子
佐々木悦子
佐藤早智子

高10期
面白 紘
佐藤 菁治
佐和田 丸
清水 義男
清水小枝子
高11期
押田 良樹
神門 英明
田中 一男
今井 洋子
鈴木 洋子
田村 廸子
中尾 長子
中川 陽子
高12期
萩野 貫悟
森 倫也
山本 朝栄
高13期
持田 勲
深澤千栄子
水田 昭子
水野 明代
高14期
内田一三夫
片山 伸雄
加藤 巡一
川上 克彦
木村 修芳
小泉 勝是
木幡 晃正
富永 寿郎
宮原 琢郎
新名貴久子
三島 幸子

高15期
金坂 喜好
佐藤 修介
真庭 功
高16期
梅木 隆志
神田 俊之
清原 正義
佐々木康雄
坪倉 司郎
松本 耕司
三成 宏二
三吉 孜
森藤 哲章
田中由美子
中安 節子
高17期
岡 久夫
後藤 研三
永井 貞泰
岩本眞左子
木島 光子
島本妃早美
西野やよい
高18期
小田 一美
齋藤 正治
齋藤 孝志
稲生 喜子
白神知都子
高19期
岩田 一志
新見 泰朗
元栄 徹
池田喜美代
大久保章子

高20期
井上 保教
小数賀健二
金見 幸夫
渡辺 悟
佐野 和子
平田 まり
三好 資子
物種 慶子
山嵜麻里子
高21期
野津 一雄
花田 幸久
竹添 則子
高22（理1）期
木下 孝
内藤 清志
内藤 善夫
村田 貢
大浦 綾子
木山 洋子
鶴羽 孝子
松下 和子
高23（理2）期
朝比奈博則
近藤 文雄
松本 潤
和田 邦孝
今西 桂子
扇 澄美子
小松久美子
橘 千里
西村 充子
松本 幸子
山口 紀子
葭田久美子

高24（理3）期
徳田 完二
瀬戸口二三子
西田 悦子
水野 順子
高25（理4）期
飯石 浩康
高26（理5）期
伊藤 博之
岩崎 範樹
周藤 達夫
福間 則博
松村 聡
前羽 香江
高27（理6）期
野口 博也
三浦 清
木田 京子
新宮富美子
松田 稚子
高29（理8）期
石橋 敏幸
高31（理10）期
小林 満
宍道 弘志
中倉 行彦
若林 武徳
高36（理15）期
今宮 一正
森口 次郎
高38（理17）期
長谷川浩之
山根 武広
高43（理22）期
安達 宏昭

150名
（昨年161名）
（ご不審の点は事務局までご確認ください）

追　悼

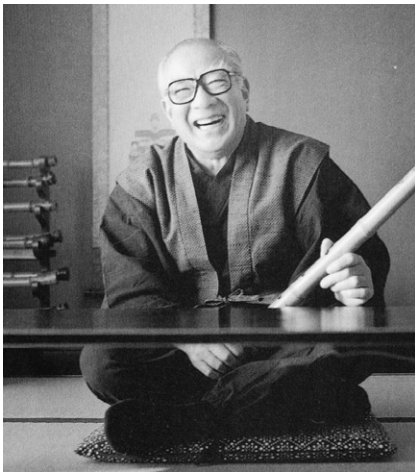
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(昨年の会報掲載以降に事務局にご連絡のあった方、
ならびに令和３年度「双松名簿」に記載のあった方を掲載しました)

物故会員

期	お名前（旧姓）	ご逝去年月日
中６３期	坪 倉(細田)修 吉 様(東大阪市)	令和３年１月
高 1 期	和 田(木幡)亮 介 様（松江市）	令和３年５月２５日
高 2 期	成 合 茂 博 様（瀬戸市）	令和２年１０月
高 11 期	栗 原 義 郎 様（明石市）	令和３年１１月
高 11 期	後 藤 武 久 様（奈良市）	令和３年１月２４日
高 18 期	須 田 泰 次 様（宝塚市）	令和３年３月２４日
高 19 期	水 川(奈良井)裕 子 様（宝塚市）	令和２年８月
〈令和3年度「双松名簿」記載〉		
高 24 期	山 田 剛 史 様（枚方市）	令和元年１０月１日
高 30 期	野 口(柿本)美 保 様（神戸市）	令和２年１１月２０日
高 38 期	山 田(原)美保子 様（豊中市）	令和元年１０月７日

和田亮介様（高1期・第五代当会会長）ご逝去の追悼の辞


エッセイ集「ご隠居天国」から

令和３年５月25日、当会第五代会長　和田亮介様（89歳）が松江でご逝去されました。和田様は昭和６年、宍道町の旧家・木幡家「八雲本陣」の次男のお生まれで、昭和19年旧制松江中学（69期）入学、昭和25年新制松江高校（１期）を卒業され、島根大学卒業後、大阪の実業界で、また執筆の世界でご活躍されました。

（和田哲（現ワテックス）会長、大阪商工会議所常議員、近畿島根県人会会長、日本ペンクラブ会員、日本エッセイストクラブ会員、山陰尺八道場二代目道場主、藍綬褒章、大阪文化功労賞）

当会との関係では昭和42年の「近畿松江高校・松江北高校同窓会」発足時の初代会長になられ、平成３年の同会の発展的解消に至るまで、旧制松江中学を基盤とする旧「近畿双松会」から、今日の新「近畿双松会」に至る架け橋としてご尽力をいただきました。平成８年から14年までは第五代会長として、特に平成14年の選抜高校野球21世紀枠出場応援の際には陣頭に立ってリードされ、その後も当会と我々後輩をあたたかく見守っていただきました。

平成18年にはふるさと会「近畿松江会」の創設を主導されるなど、ふるさとへの思いは人一倍お強く、平成27年、母校が見えるところで余生を過ごすとされ、松江に帰られましたが、執筆活動のかたわら、当会にも常にご関心をお寄せいただいておりました。

当会の長い歴史の中でも、中興の礎を築いていただいたお一人でいらっしゃることを皆様にお知らせし、当会へのご貢献と我々後輩へのご薫陶に深く感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げたく、僭越ながら筆をとらせていただきました。　合掌

近畿双松会会長　松本耕司（16期）

■追記：和田様は著名なエッセイストでいらっしゃいました。ご遺族様から満中陰志としていただきましたエッセイ集「ご隠居天国」を当会ホームページに掲載（令和３年８月７日）していますので、ご覧いただければ幸いです。

和田様の明るく豪快な、そして洒脱なお人柄は忘れることができません。最後にいただいたお便りは昨年正月で、コロナの退散を願うものでした。お得意の筆さばきでサラサラと描かれた「丑」のデッサンを見ながらあらためて故人を偲ぶことしきりです。添えられていた言葉は、真に和田様らしく、「コロナ去り ウシシと笑える 丑の年」でした。「寅」の年、早くそうなりますよう‥

＜ご紹介＞近畿地域での「松江会・安来会・県人会」について

近畿地域には、島根県下の殆どの市町村の「ふるさと会」があり、相互の親睦や郷土の発展を願って活動を続けています。いずれの会も、ふるさとの人口減少に起因する会員の減少や高齢化問題に直面しているのが現実ですが、新型コロナ感染が終息すれば、各会の活動が再開されていくと思われますので、この機会にご紹介をします。

◆「近畿松江会」

会員は、松江市の出身者・学校卒業者を対象としており、全員の皆様が有資格者です。

・平成の大合併を受けてできた歴史の新しい会で、近畿双松会の先輩方が深く設立に関わられ、現在は当会・松本耕司会長（16 期）が松江会の会長も務めています。

・年会費は３千円で、各種の松江関連情報の入手以外に、**松江市全家庭に配布される広報誌の「市報松江」が、毎月、松江市から郵送されるという大きな特典**があります。また、松江市の PR にご協力いただける方は「松江観光大使」となることもできます。

・詳しくは、「近畿松江会」ホームページでご覧ください。⇒ http://www.kinki-matsuekai.jp/

現在、「近畿松江会」は、松江市内各高校の近畿同窓会に呼びかけて、会員の拡大に努めているとのことです。歴史の長い北高は「核」とも言える位置づけでもありますので、近畿双松会の皆様には、積極的なご協力をいただければ幸いです。

「入会申し込み」は、上記ホームページから申し込むことができます。

・あるいは、直接、近畿双松会会長：松本耕司（16 期）(k-matsumoto@hi-ho.ne.jp)、
または、事務局長：宍道弘志（31 期）（hiro.shinji@gmail.com）までご連絡ください。

◆「近畿安来会」

関西在住の安来市にゆかりのある方で組織しており、年一回の総会・懇談会では安来市特産品の販売などもおこない、ほかにも散策会やゴルフ会の行事もあります。安来市にご関係の皆様のご参加をお待ちしています。（年会費は不要、それぞれの会での費用負担は有り）

・詳しくは「近畿安来会」で検索の上、ご覧ください。（会長：当会・松本潤副会長 (23 期)）

「ご加入等のお問い合わせ」は、安来市役所内 やすぎ暮らし推進課まで。(電話 :0854-23-3105)

◆「近畿島根県人会」

島根県全域の出身者・関係者を対象とし、古い歴史を有して活動を続けています。

・詳しくは、「近畿島根県人会」ホームページでご覧ください。⇒ kinkishimane-kenjinkai.com

・「入会申し込み」は、上記ホームページから申し込むことができます。（年会費は３千円）

あるいは、上記、松本耕司までご相談ください。(k-matsumoto@hi-ho.ne.jp)

◆「その他の市町村ふるさと会など」

上記「近畿島根県人会」のホームページに、39 団体が紹介されていますのでご覧ください。

以上

活動休止状態でも、“絆”としての会報だけは発行し、お互いの元気づくりになればと、この「近況報告」へのご投稿を皆様にお願いしました。

その時は、オリ・パラも終わったばかりで、秋から冬にかけてコロナ感染も収束すると思っていましたが、現状は、皆様ご承知のとおりです。

先行きは不透明ですが、どうやらこの近況報告の目的だけは達成することができるようです。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

この二年連続の、コロナ版とも言える近況報告が一日も早く思い出話になることを願っています。

なお、半年をこえる期間での投稿募集でしたので、それぞれの背景時期が異なりますことはお読み取りください。　（2022.2.28　事務局）

高 1（昭 25 卒）伊藤 雅義（京都市山科区）

齢 90 歳、昨年は卒寿の年でした。年相応と言おうか、加齢とともに難聴・腰痛等々身体の故障が各所に出てきて、確実に老化が進行しています。ならば、その状況を多少なりとも抑止しようと、近くのスポーツクラブに通い、ストレッチ体操や水中歩行などを日課にしています。始めてから 18 年、今ではクラブ利用者のうち最高齢になりました。

話は変わりますが、私ども松江中学 69 期・松江高校 1 期の同窓会「一双会」は、昨年大半の会員が卒寿を迎えたのを機にその幕を閉じました。のちに日本や世界を舞台に活躍し、それぞれ名を成した多くの俊英と共に、中学・高校の 6 年間を、赤山台上二本松の下で学んだことを今でも誇りに思っています。

近畿双松会については、近畿に在住する旧制松江中学の卒業生を会員とする（旧）近畿双松会と、新制松江高校卒業生を会員とする近畿松江高校同窓会を統合するに当たり、男女共学などの経験のない中学の先輩のなかには、この統合に戸惑う声もあったと聞いて、時の流れを感じたことなどを思い出しました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 2（昭 26 卒）堀江 眞三人（西宮市）

私はとうとう 90 歳になった。まだボケは出ていない。百貨店に行くと等身大の鏡に全身を映して姿勢を見ることにしている。背筋は真っすぐ伸びて腰も曲がっていない。全体に生き生きとしてにっこり笑った顔が鏡の中でも笑い返している。まだ大丈夫とほほえむ。これからは金よりも健康が欲しい。そのための投資なら惜しまないし、90 年の波風を凌いで来た我が身をいたわりたい。

5 年ごとに発刊される分厚い卒業生名簿「双松」は昨年発刊されたばかりだが、その 5 年前の名簿と比較すると多くの級友があの世に旅立っていて、あいつもか彼もかと心が痛む。2 期では 195 人が逝去（行方不明者含む））生存者が 93 名に急減していた。全体から見れば 32%の生存率で、今後更に減る一方である。さて、次回の名簿は 5 年後の令和 8 年に発刊されるが、果して生きて読むことができるかどうか。私はできると確信している。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 6（昭 30 卒）荻野 克彦（箕面市）

2 年続く自粛生活で、楽しみはコロナ直後に始めた松高の友人 8 名との月例リモート同窓会。会は誰かのプレゼンで始まり、その後それについて皆で話合う約 2 時間の会合。プレゼンは毎回一人、順番に全員が当たる。話題は自分の仕事や人生の話、今の関心事ほか様々。

それにしても東北、九州にまで散らばる友人と毎月顔を合わせることなど以前は考えもしなかったこと。最初、皆 Skype に不慣れで四苦八苦したが、乗り物使わずエコで、身体も楽な、楽しい会合。発案者西村二郎氏に感謝。

他に地域の国際交流協会のボランティアをやっている。在米時の体験も踏まえ、グローバル化が進む中、外国人も住みやすい「まちづくり」に関わってみようと 15 年前始めた。日本語学習支援、留学生との交流、多言語情報提供などに関わってきた。頼まれて理事長も 6 年やり、今も理事。

今はコロナに悩まされながら、協会の情報誌の編集、読書会のお世話をしている（カズオ・イシグロの「日の名残り」の原書を米国人の先生と読む）。若い人達に揉まれて、私にとってはいいボケ防止。これも感謝。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 9（昭 33 卒）伴 稔也（橿原市）

令和 2 年～ 3 年と、コロナ、コロナで明け暮れた年でした。不要不急の外出は避けて、一杯飲み会にも行かず、家に籠らざるを得ない 2 年間でした。何とかこの禍いの期間を生かせないか・・。趣味のレベルを上げよう・・と、晴耕雨読ならぬ「晴彫雨整（せ

いちょううせい）」、彫：版画を彫る、整：自律神経を整える、終活整理する・・、に徹してみました。

その成果かどうかは定かではありませんが、拙作の版画2作品が、令和3年奈良県美術展に入選（左記に掲載させていただきました、題名　琵琶舞）。

また、全日本アートサロン美術展に入賞（佳作）し、後者は令和4年3月1日～6日、大阪市美術館（天王寺）で展示されます。第6波が襲来していますが、何とか乗り切りたいと思っています。

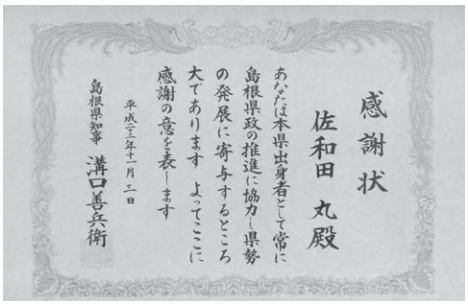
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高10（昭34卒）佐和田 丸（枚方市）

今年の正月は、コロナの関係で2年ぶりに子供家族が帰省してくれ、賑やかで楽しいひとときをすごすことができました。孫の成長に驚き、新発見もありよろこびました。早くコロ ナが終息してほしいですね。本会報が出るころは、どうなっているでしょうか･･･。

自宅近くの広大なUR団地内を、健康のため毎日1時間余り散歩しています。行き交う女性はマスクだらけで、みんな美人になり、散歩が一段と楽しくなりました。

地元、県市町村いずこもなにかとたいへんのようです。育ててもらった恩義もあり、郷里にお役に立てることは、何かと協力してきました。終末整理しておりましたら、知事の感謝状がでてきました。



感謝状

佐和田 丸殿

あなたは本県出身者として常に島根県政の推進に協力し県勢の発展に寄与するところ大であります よってここに感謝の意を表します

平成三年十二月二日

島根県知事 溝口善兵衛

（HP近畿双松会会報2013web版83p）

高11（昭35卒）押田 良樹（吹田市）

（1）外出は近場の万博公園とその周辺のウォーキング、そして医者、歯医者、散髪くらいだった一年。しかし、私にとってプラス面もあった。おかげで阪急時代から応援しているオリックスの試合を一年間を通してテレビ中継で堪能できた。

しかも、オリックスの25年ぶりのリーグ優勝もあり最後まで退屈しなかった。（自由投稿に別掲）阪神ファンの松本会長とは折に触れ「慰め、励まし」あってきたが、念願の関西対決がならず残念だった。

（2）ウォーキングは年間一日平均7700歩。前年より減ったが、年齢を考えあまり歩きすぎないように目標を7000～8000歩にし、そのうち20分は早足歩行を励行して、量より質重視で健康維持に努めている。

（3）松江の「橋巡り」は、残念ながら休止状態が続いている。

（4）諸説があるという、ヘルンの京店の第二の住まいの場所解明のため調査を続けてきたが、遂に「ここだ」という明確な場所を特定することができた。近く何らかの発表を予定している。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高11（昭35卒）畑田 稔（神戸市垂水区）

近畿双松会の皆様お元気ですか。

コロナ騒ぎで近畿双松会総会も昨年、今年と2年連続で流れ、悔しい思いでいます。一日も早いコロナウイルス感染症の終息を願っています。

近況ですが、昨年からあらゆる行事や計画が中止となり、結果として運動不足で2kgも体重が増えたため、毎日の歩行距離を伸ばしたり速歩を組み入れたりして頑張っていましたが、昨秋、歩行中に右足と腰に痺れが出て、数百米で歩けなくなる症状が出て運動中断になりました。

検査の結果、脊柱管狭窄症と判断されブロック注射や投薬で約4カ月間通院し、今年やっと元の状態に戻り運動再開しました。11月頃からコロナも少し落ち着いてきたので、先日は会社同期仲間と1年半ぶりのゴルフを楽しみました。

とは言っても年令も80歳の大台に乗り、今後もいろいろな病気が出てくる可能性もあるため、もっと真剣に終活をしなければと思っている今日この頃です。

高 13（昭 37 卒）安部 正毅（神戸市東灘区）

私は松江北高校を卒業し、今年 79 歳になります。現在は日本技術士会、日本繊維技術士センター(JTCC)に所属しております。

中学から続けていた軟式テニスは 70 歳くらいまで頑張っていましたが、今は家で素振りのまねごとをするだけになりました。幸い家内はあちこちに趣味の友達を開拓し、ますます元気です。

写真は昨秋信州大で講義した時のものです。学生から元気をもらっています。私たちの学生時代と異なり講座名を聞いても何を学んでいるのかわからなくなっています。私の関係する繊維系でも「先進繊維・感性工学科」「機械・ロボット学科」「化学・材料工学科」「応用生物科学科」「国際連携プログラム」「ファッション工学プログラム」「先進複合材料工学プログラム」等々。IT に弱い私は四苦八苦です。

これからも、上杉鷹山公の「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」を胸に、残された時間がどれくらいかわかりませんが一日一日を大切に過ごしていきます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 13（昭 37 卒）桑原 洋史（京都市西京区）

昨年 6 月 25 日出勤前、早朝 5 時半頃、玄関の方でガーンと言う大きな鈍い音。何事かと見に行くと妻が血まみれになって呻いている。階段から転げ落ちたらしい。

呼びかけに反応がない。救急病院に搬送、結果、ここでは対応出来ないと。それで日赤へ。ここでも同様の検査。結果、重症の交通事故患者と同じですと。

病名：頭蓋底骨折、脳出血、右肋骨多発骨折 9 本、右鎖骨骨折、右肩甲骨骨折、血気胸、腰椎粉砕骨折、という状態。酸素吸入を増やしても酸素濃度は上がらない。気になるがもう病院に任せるしかない。その後、肺が拡がらないので鎖骨と肋骨の手術をしたいと、7 日後に手術、その後は、状態は落ち着いて来た。

ひと月後、リハビリ病院に転院。この時、妻と久しぶりの対面、大きな変化なくホッとした。リハビリ病院では月に 1 回カンファレンスがあり、妻と面談でき、精神的に楽になった。そして 12 月 23 日退院。少しの距離は歩けるようになった。良くここまで回復してくれたと感謝。

家族の新年会・・・今年も誰欠ける事なく集まった。去年より 2 人増えている。又、妻不在で分かった事は、私は何も出来ない事（困ったもんだ）と、息子達家族が妻の不在を忘れさせてくれるような心遣いをしてくれた事。

これって妻の近況報告？

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14 相当（昭 38 山口高校卒）小泉 勝是（長岡京市）

初夢ではないですが年明けに懐かしい「文楽」鑑賞会の夢を見ました。

コロナのお陰で、繁昌亭の「落語」鑑賞会やハイキングなどの近畿双松会の楽しい催しが途絶えて皆様とは本当にご無沙汰です。

約 7 年続けて参加の「子ども向けの科学実験やオモチャ作りのイベント」も開催件数が激減してしまいました。

でもこれで落ち込む訳には行かず長年溜め込んできた本や道具類の整理、新作オモチャの試作、小さな庭での野菜作りなどに頑張っているこの頃です。

外出の機会が減った分、少しでも体を動かさねばと、押田先輩から学び 3 年前から始めた散歩運動に励んでいます。偶々テレビ番組で紹介の本に、「1 日 8,000 歩・早歩き 20 分で病気予防」とあり、意を強くして、小さな長岡京の市内を毎日歩き回っています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14（昭 38 卒）木幡 晃正（丹波篠山市）

先日 1/20、WOWOW 録画でスピルバーグ監督、トム・ハンクス主演の映画「ブリッジ. オブ. スパイ」を観ました。実際にあったソ連のスパイとアメリカ人パイロットの人質交換の話ですが、米国交渉人ジェームス. ドノバン弁護士（1916 ～ 70）の人柄と交渉に惹かれてしまいました。

ほかにも、ドノバン弁護士は 1962 年、アメリカ政府の依頼で、ビッグス湾侵攻事件の失敗で捕虜となった 1,113 人の解放のためにキューバに向かい、カストロ首相と交渉し成功させ、次いで 1963 年にはキュー

バに拘留されていた子供を含む 9,703 人の解放を確保するという大きな業績を挙げています。

現代の出来事でも知らない事だらけですが、スマホ等で検索していくと、色々解りますヨ！

「皆様、今年も楽しい良き時間を探して、2022 年を楽しく元気に暮らしましょう！」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14（昭 38 卒）宮原 琢郎（堺市南区）

＜近畿双松会と私＞

2008 年、実家で法事に出席したとき、姪から子供が松江北高に入学することになったので、どんな学校か教えて欲しいと聞かれましたが知識がなく、インターネットで調べました。

その時、近畿双松会が行事でウォーキングをしているのを知り、その年の「明日香村」に参加させていただきました。

その後、総会に初めて出席させていただいたとき、受付で肩を叩かれた人の顔を見て驚きました。岩間令道（24・理 3 期）さんです。大阪証券取引所の 2 階で開業されている岩間クリニックの医師です。私は 2002 年に北浜にあった会社を退職し、自宅は堺市でありますが、それまで診察していただいた岩間クリニックにその後も通院していました。

自宅から遠い、土曜日が休み、とのマイナス面はありますが、診察に安心感と信頼感があり通っていました。松江、北高の雰囲気がそうさせたのか、岩間氏の診察から安心感を受けました。

島根県の観光ポスターに「運は一瞬、縁は一生」と書かれています。「縁」は、家族、学校、職場、同好会等多くあり、運、不運と違い、長く続きます。今後も近畿双松会にお世話になろうと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14（昭 38 卒）三好 洋二（宝塚市）

昭和 44 年に鳥取大学医学部を卒業し、山陰、大阪の病院に勤務し、56 歳の時に、オーナーになりたくて、池田駅前で三好内科を開業しました。

21 年間務めた昨年夏、東京オリンピック、パラリンピックを観戦し、個人競技より、野球やサッカーやバスケットボールのような団体競技が面白くて楽しいと、自院を譲って、今年から再び勤務医に戻りました。

77 歳の喜寿を迎えて思うことは、人生は使うより、使われる方が、ずーっと楽しくて面白い。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 14（昭 38 卒）齋藤 丸子（京都市西京区）

今年の寒さは、特に厳しいですね。雪も例年より多い。そんな中、散歩していると近所の庭に「日本水仙」がひっそりと咲いていて、嬉しくなります。

日本水仙は素朴で香りが良く、華やかさはないのですが、存在感はあります。生け花の一月の生花として生けた時の感動を今も忘れられません。それぐらい、道端に何気なく咲いていて、まさか「生け花」に生けるとは思っていませんでした。二、三本挿すと、ほのかに香りを放ち、幸せな気持ちになりました。家の梅の木も蕾が少しずつ膨らんでいるように思います。楽しみです。

1 月 16 日には、宝塚歌劇鑑賞会に参加できて感謝です。劇場は満席でコロナ対応ができているのだなと思いました。阪急電車は昨年は冬期・コロナ禍の時、各車輛、窓が開いていたのに、今期は窓は閉まっていて、換気十分のステッカーが貼ってあるので、流石、阪急と思いました。

宝塚鑑賞に誘っていただいた時は、一度ぐらいはと思っていたのに、再度参加しました。一回目より二回目と学ぶことが多くありました。全てに無駄なく隙なく、計算し尽くされた人工美を感じました。観客を飽きさせない「おもてなし」の心を学びました。

お世話いただいた皆様に感謝申し上げます。食事会が出来なくて残念でしたが、次回は楽しくお喋りしながらお食事できたらいいですね。

ありがとうございました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）梅木 隆志（大阪市鶴見区）

5 年ほど前から右耳の後ろが腫れ「おたふく風邪」のような状況で病院行き、診察を受けたところ耳下腺炎と

のことでした。検査の結果、悪性ではないので気にならなければ、そのままにしておいても良いとのことでした。

それで半年ごとに経過観察のためエコー検査を実施していました。その後、直径 5 センチくらいの大きさになり、鏡を見たり、触ると気になりだし、手術することにしました。

昨年 2 月手術予定でしたが、コロナの関係で急がない手術は延期しますとのことで、再三延期され 6 月の手術になりました。手術は、19 歳の時の盲腸以来で全身麻酔は初めての経験でした。

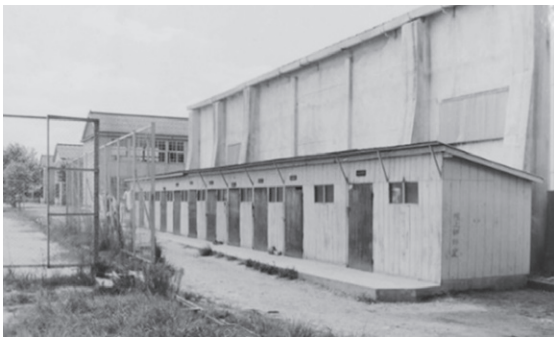
手術後、摘出されたのを見せられたのですが卵より一回り大きくびっくり。現在はすっきりしたところです。耳下腺炎の原因はタバコとのことでした。タバコを吸っている人が全員なっていないので半信半疑ですが、禁煙と戦っているところです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）清原 正義（浜田・松江市在住）

年の暮れになりました。1 年があっという間に過ぎてしまいます。

先日、松江北高 145 周年双松会記念行事で講演をしました。同期の金津君が会長、古瀬君が副会長、幹事長が金平君ではお断りのしようがなかった次第です。北高の HP に西川津校舎体育館裏の部室の写真があったので懐かしく紹介しました。



一番右が私がいた陸上部の西川津の部室

皆様、お元気でお過ごしください。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）松本 耕司（枚方市）

タケノコにさほどの執着がある訳ではないが、生家近くの竹藪で獲れる、子どもの時から食べていたものとなれば話は別である。

コロナ一年目、県マタギ自粛の要請に応えた後の無残な竹藪を見て涙し、後始末に大汗をかいたが、二年目の去年、まったく同じことが起きた！！伸びた竹の切り倒し、根の掘り起こし、竹を輪切りにしての廃棄運搬と、電気ノコギリまで買って昨年末、漸く下記の姿にまで復旧させた。

期待の今年三年目・・、闘いはこれで終わったはずだったのに、また同じことが起きそうな気配に、今、悶えている。せめて、旬の時期での県マタギ自粛などの野暮な話はナシにしてもらいたいと願っている。

さすがに、あと 5 年、80 歳になれば生家の家じまい、墓じまい、竹藪じまいをしようと覚悟をしたところに、お寺さんから法事の予告があった。なんと 6 年後に亡父の50回忌と亡母の33回忌がセットでやってくると。であれば是非もなく、あと 6 年、81 歳まではこのままで頑張ろうと密かに決意した。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）三吉 孜（川西市）

＜映画的近況＞

去年はコロナ禍で趣味の写真撮影や旅行は以前に比べてがた減りしました。BGM を聴きながらパソコンに向かっていることが多くなったこの頃です。

偶に、私の興味を駆り立てる映画が来たら見に行きました。去年は映画館で 8 本見ました。見たのは‥洋画を中心に、『天井桟敷の人々』（映画史の名作デジタル版）、『ファーザー』（名優アンソニー・ホプキンス主演）、『MINAMATA』（写真家ユージン・スミスと水俣病）、『過去はいつも新しく、未来はつねに懐かしい』（写真家森山大道のいま）、『真夏の夜のジャズ』（名画のデジタル版）、『チェイシング・トレーン』（ジョン・コルトレーンのドキュメント）、『サマー・オブ・ソウル』（50 年封印されていた映画）、日本の喜劇『老後の資金がありません！』（天海祐希ファンの家内と）

～古い映画の再上映を見るのは、私の気持ちの中で記憶や情報の整理等があると思います。（なお、マニアックな映画は観客もまばらです）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 16（昭 40 卒）森藤 哲章（橿原市）

＜東京オリンピック 2020 ＞

昭和 39 年 (私が北高 3 年生の時) に行われた東京オリンピックの現地での見学が夢に終わったため、今回はぜひ国立競技場内でオリンピックを見学したいと思っていました。インターネットで開会式を含めた入場券の申し込みをしましたがことごとくはずれ、そのため飛鳥Ⅱ (クルーズ船) でのオリンピック観戦を申し込み、なんとか会場内での観戦が実現しそうでした。

楽しみにしていましたが、コロナ騒動のため無観客開催が発表され、それではとパラリンピックの申し込みをして閉会式の切符をやっと手に入れましたが、結局、パラリンピックも無観客開催と発表されました。

せめて、国立競技場の雰囲気でも味わおうとパラリンピックの閉会式に合わせ、ドライブして東京に行きました。閉会式の夜、国立競技場内から打ち上げられた花火は国立競技場のすぐ外側で見ることが出来ました。なお、インターネットを通じで予約金の払い戻し手続きをしたところ、全額無事に返金されました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 18（昭 42 卒）小田　一美（奈良市）

皆さんこんにちは！ コロナが一向に収まりませんね。それどころかすぐ身近に迫って来ているのを実感している今日この頃です。私は基礎疾患を持っていますので、罹患しないように日頃から気を付けています。

家に閉じこもってばかりでも身体に良くないので、朝のウォーキングと月 2 ～ 3 回程度のゴルフなどでリフレッシュを図っています。

同期会も長い間開催できていませんので、最近ひさしぶりに一部の同期の皆さんに生存確認をしたところ、全員無事に生きながらえているとの連絡があり、ひと安心したところです。早くコロナが収まり、普通の日常生活が取り戻せた段階でできるだけ早い時期に同期会が開催出来ればと思っています。同期の皆さん始め、双松会の皆さん、どうかご自愛ください。

明るい未来を信じてそれまで頑張りましょう。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 20（昭 44 卒）山嵜 麻里子（大東市）

父が 2020 年に 102 歳で亡くなり、松江には誰もいなくなりました。妹達と相談して、実家もお墓も処分。

家は、そのまま欲しいという人がいて壊さずに済みました。石見地方にある祖先のお墓は、墓じまいをして向こうで合祀。

両親の骨は、松江でお世話になったお寺さんが京都の大谷本廟に永代供養のブースを持っているので、そこへ入れてもらいました。

全て片付いてきれいさっぱり。でも、松江には何も無くなり、寂しくなりました。幸い、高橋一清さんの追っかけをしていて、「松江文学学校」を受講しているので、ホテル泊りで年に何回も帰っています。(今までは聴くだけでしたが、今年は随筆に初挑戦！)

実家は、不動産屋さんと契約終了後は一度ものぞいていません。気持ちの整理がついたら、そのうち見に行こうと思っています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 21（昭 45 卒）野津 一雄（尼崎市）

令和 4 年になりましたが、相変わらず新型コロナの影響が残っております。皆様いかがお過ごしでしょうか?

さて、私も昨年は新型コロナに翻弄された一年でした。

母の一周忌を、お寺さんにお願いして 7 月 4 日に松江市内の菩提寺で実施することとしておりましたが、コロナ第 5 波がピークとなり、兵庫県や弟の住む大阪府の感染状況も深刻となっておりました。

そこで、一周忌の準備も進んでいましたが、松江での出席者に感染流行地域の兵庫、大阪からコロナウイルスを持ち込んで出席者の皆さんに感染させては

いけないので、変則的ではありますが、主催者の私たち夫婦及び弟夫婦は欠席し、一周忌の執り行い（お寺さんへの応対、支払い、出席者へのお礼の品お渡しなど）を従兄にお願いして無事完了しました。

8月の初盆は私達もコロナワクチンの2回目の接種がやっと完了しましたので、帰省して初盆行事を行いました。

その後12月に入ってコロナが収まってきましたので2年ぶりに同好会の武庫川廃線ハイキングや個人的に京都嵐山への紅葉狩りに行きました。

最近はコロナも感染力の強いというオミクロン株が出てきて先行き不透明ですが、これまで同様に過ごしたいと思います。

今年も宜しくお願いします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高22（昭46卒）大浦 綾子（西宮市）

コロナ禍のため、近畿双松会の皆さまにはすっかりご無沙汰しております。先日やっと(1月16日開催の)「宝塚歌劇鑑賞会」に参加して、久々に懐かしいお顔を拝見出来ました。マスク越しですが、少しお話もできて楽しいひと時を過ごしました。先輩から「2年ぶりだね」と言われたとき、あゝもうそんなになるのかと感慨を新たにしたものです。

このコロナ禍の中、個人的には激動の2年間を過ごしました。大分に住む夫の両親の度々の入院、施設の移動、葬儀、法事、家や納屋の片付け、相続を巡ってのあれこれ、墓仕舞い・・、緊急事態宣言が発出されていようがお構いなしの事態の襲来に、それこそ決死？の覚悟で次々と対応し、バタバタと過ごしました。ただいま、少々お疲れ気味です。

自粛が続きましたが、こんな時だからこそ近畿双松会のメルマガ「さんみゃくうかびて」の配信は楽しみの一つとなりました。

先ず『懸賞クイズ　いにしえからの挑戦状』は、懸賞品が魅力的だったこともあって、かなりの本気モードでスマホを駆使して検索し4回とも全問正解しましたが、残念ながら懸賞品は当たりませんでした。謎解きはなかなか楽しかったです。

続いて島根県古代文化センター歴史文化講座のオンライン授業も2回ばかり視聴しました。コアな内容でちょっとついて行けない時は、画面はそのままでちょっと退座して家事をしたり、オンラインならではの、ゆる～い参加でした。

ふるさと情報誌「湖都松江」のご案内は、定期購読していない私には注文のきっかけとなり、目的の記事も読めました。

気になるふるさと関連のテレビ番組の情報はすぐにメモをして、視聴しました。（メモをしなければ忘れる、せっかくのメモも忘れて見逃すということもあったりのボケぶりですが）

母校の情報も、有り難かったです。最近では「世界の人たれ」プログラムによる公開授業をzoomで覗かせてもらいました。孫のような高校生の後輩達の明るさに癒やしの時間を貰いました。

今朝ほどは、なんとメルマガ第100号の配信がありました。テーマは「宝塚歌劇鑑賞会」でした。これから読もうと思います。

暫く直にはお会いできませんが、いつかマスク無しの楽しい会食ができる日を楽しみにしております。

皆さまどうぞお元気にお過ごしくださいませ。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高22（昭46卒）鶴羽 孝子（尼崎市）

【同期会近況報告】

昨年、コロナ感染者がやや落ち着いた10月に、同期の内村昭さんが参加された絵画展が大阪市中央区の画廊で開催され、鑑賞に伺いました。久しぶりに作品を拝見し、ご本人にもお会いすることができ、心和むひと時を過ごしました。

今年1月には、内村さんの洋画とともに太田朗夫さんもステンドグラスを出展される作品展が予定されていましたが、コロナ感染者が急増したため、残念ながら延期となってしまいました。時期を改めて開催され

るとのことですので、楽しみに待ちたいと思います。

今は同期メンバーが一堂に会することはできませんが、このような機会を活かして交流を続けていきたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 23（昭 47 卒）松本 幸子（大阪市都島区）

屋久島！ 12 月 7 日 5 時 55 分、ヘッドライトをつけ、縄文杉をめざして荒川登山口を出発。往復 22 ㎞、10 ～ 11 時間の縄文杉トレッキング、リタイアせずに頑張るぞと気合をいれる。

登山ガイドについて片道約 8 ㎞のトロッコ道をひたすら歩く。大株歩道入口から登山道へ。いきなり傾斜がきつくなる。根っこがむきだしの道もあり、滑らないように転ばないように気を付けて歩く。次第に体力が奪われ、周りを見る余裕がなくなる。出発から約 5 時間、やっとたどり着いた縄文杉。樹齢 7,200 年の神々しさに息を飲み、思わず手を合わせる。

下山途中、足の踏ん張りがきかず 2 度転ぶ。トロッコ道で右足指の痛みが我慢できず登山靴を脱ぎ、借りたシューズで無事荒川登山口に戻ることができた。やった！ 縄文杉トレッキング、10 時間 20 分完歩！ 温泉が身も心も癒してくれた。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 23（昭 47 卒）山口 紀子（神戸市垂水区）

2021 年正月、ふと「今年は何かに挑戦してみたい！」と思い、前から気になっていた漢字検定を受けてみることにしました。

早速準 2 級の問題集を購入。漢検は読み書きだけではなく部首、熟語の構成、四字熟語、同音同訓異字等があることにびっくり。準 2 級は楽しく進み、次は 2 級の問題集へ。これはとても難しく、汗牛充棟？ 換骨奪胎？？意地悪問題としか思えない部首問題。急に難しくなり苦戦しました。

そして遂に 6 月 20 日検定日。初めて見る熟語や簡単な字のド忘れ、時間がない、等「試験あるある」を久しぶりに経験しながら終了。

自己採点では 1 点不足でしたが 2 か月後になんと「合格通知」が届き、私の挑戦は終わったのでした。

高 24（昭 48 卒）徳田 完二（京都市北区）

2022 年 3 月末をもって、30 数年にわたる大学教員の仕事をやめることになった。思えば小学校入学以来ずっと「学校」の中にいたことになる。

ある意味では「世間」を知らずに過ごしてきたとも言えるが、その一方、大学というところは平和な楽園のようなところとは程遠く、「社会の縮図」でもあるので、いろいろなことを経験する結果になった。身近なところで殺人事件も起こったし、裁判に関わるはめにもなった。

大学ではいろいろな不正問題やハラスメント問題などは日常茶飯事、とまでは言わないが、めずらしいことではない。そういうことも「社会勉強」のうちと思って過ごしてきた。その中で、後ろ指を差されることなく退職にこぎつけたのは幸いだったと言えるかもしれない。

もちろん楽しい思い出も多い。自分としてはまあまあ満足のいく大学教員生活だったと感じている。私のような者が大学で仕事ができたのは、「時代」によるところが大きい。大学進学率が上昇して大学が増え、大学教員の需要が増大したこと、とりわけ私の専門である臨床心理学の教員需要が急速に膨らむという流れがあったことが幸いしたと思う。

今は年度末で、いろいろとまとめや整理をしなければいけないため落ち着かないが、気持ちはすでに「隠居モード」になりつつある。

4 月からは孫の面倒を見る生活が待っている。孫は 0 歳児で保育所に行くことになっているが、母親（私の娘）に代わって私が毎日彼の「お迎え」に行くことになる。新学期になると、私は育爺 1 年生である。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 24（昭 48 卒）小川 ひとみ（加西市）

みなさんは松江を遠く離れて、現在お住まいの町（市）の事をご存知でしょうか。私は約 40 年住んでいてもあまり知りません。人に「この町の名所や良い所を教えてください。」と言われても、答えることができませんでした。

数年前に播磨国風土記やこの地に多く残っている古墳の話を聞く機会がありました。それからです。我

が住む加西市について興味が湧き、少しずつですが学ぶことが楽しくなりました。

現在、公民館主催講座『ボランティアガイドが語るふるさと加西の歴史』で座学とフィールドワークに参加しています。何しろ学生時代から歴史は大の苦手、もっと真面目に勉強しておけば良かったと反省しながらですが、「ワーッ！こんなに名所がいっぱいあったんだ。」と驚いています。

遠出がなかなか難しいこの頃、まず身近なところで楽しみを見つけては…。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 26（昭 50 卒）周藤 達夫（神戸市灘区）

皆様　お久しぶりです。お元気ですか。

コロナ禍の社会的影響が想像以上に長引き、私ども同期も含めて、皆様と長くお会いできていません。多くの方は、この間、行動制限等を受け、窮屈な日々を送られておられると思います。

私事ですが、昨年 6 月金沢に転勤となり、現在、単身赴任生活をしております。今まで京阪神での勤務が多かったのですが、金沢は初めての勤務地であり、またこの年齢での単身赴任は、ちょっとした出来事でありました。

金沢を含めて北陸には、今まで出張や旅行で何度か訪れたことがあり、個人的には、一度は住んでみたいと思うところの一つでありました。この時期ですので、物見遊山でいろいろ出かけるのも憚られますが、まん防等行動制限の間隙を縫い、北陸の食を堪能し、休日には山や海、寺社仏閣、博物館等を探訪しています。行く先々で感じますのは、想像以上に自然、文化、歴史の豊かさに溢れ、さすが加賀百万石の底力が随所に見受けられます。

また人との関りの中において、糸魚川から敦賀までが職域エリアのため、それぞれの気候、風土に根差した人柄、気質に触れ、啓発されることも多くあります。総じて山陰に似て、控えめ、従順な性格の方が多いですが、郷土愛や誇りというものを強く感じます。

いささか不謹慎な報告となりましたが、皆様の日常と近畿双松会各種活動が少しでも早く以前の状態に戻りますように北国からお祈り申し上げます。

PS. 職場で山岳部を立上げ、20 歳台の若手社員中心に月一回程度北陸の山々に出掛けています。もちろん万全の感染対策をしたうえで。(前列左端が私)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 26・理 5（昭 50 卒）松村 聡（高槻市）

コロナ禍の折、私の近況はと言いますと、台所の食洗器が年末に壊れてしまいました。築 20 年超の安普請のマンションですので、壊れてもおかしくはないですが、残りの健康年齢から逆算するとこの機会だと思い、とりあえず台所のリフォームに着手、只今工事中です。

休みの日に、嫁さんから言われるままに、箕面や吹田の展示場を見て回りましたが、細かく執拗な嫁さんの質問に、このリフォームにかけるひと方ならぬ執念を感じ取りました。

「もうそれにしとき」と、その場から立ち去ろうとすると、嫁さんから呼び止められ、「自分も使う台所だから、しっかり見といてよ」と。「自分も使うって？」「あたりまえやん」。

どうやら、完全リタイヤ後は、食事は交互に担当するとのこと。「そんなこと、聞いてないよ」。

完全リタイヤ後の新たな夫婦共生を前にたじろぐとともに、少しでも長く職場にしがみついておこうと思っているところです。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高 31（昭 55 卒）宍道 弘志（吹田市）

この度、近畿双松会の新・事務局長をさせていただくことになりました。役員会の議決は経たものの、コロナ禍で総会が開催されなかったため、今後の総会で改めてご報告させていただきます。

まだ事務局長の仕事は分からないことばかりです

が、これから2年ほど時間をかけて、前・事務局長の松本会長から仕事を引継いでいきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

私は1961年生まれの高31期ですが、この学年は最初の一年間は西川津校舎に通い、2年生からは新築の赤山校舎に引っ越して、両方の校舎を体験するという幸運な学年でした。また、同窓会が比較的低調なのも、この学年の特徴のひとつで、小・中・高、さらに言えば大学でも共通しています。

東京地区に比べても近畿地区は同期の集まりが少なく、原因の一つは、東京で勤めている人が多いからか、とも考えています。そうした中、ここ数年は近畿地区でも同期会が毎年開かれるようになり、直近では2020年2月に開催されたのですが、その直後からのコロナ禍で、昨年と今年は開催できませんでした。

私たちの学年は2021年度に60歳の還暦を迎え、仕事の上でも定年を迎える年代となるため、本来であれば還暦記念ということで、近畿地区だけでなく学年全体で集まるべきところでしたが、それができず大変残念です。コロナ禍が落ち着くのを待ちたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高42（平3卒）三好 博子（枚方市）

2021年、様々なシーンにおいて、新しい生活様式が確立された年でした。

趣味のマラソンでは、秋からリアル大会が復活し、西宮武庫川ハーフマラソン、奈良マラソン、枚方ハーフマラソンに出ることができました。参加人数を減らし、大会2週間前からの健康観察、手指の消毒、時差スタート、スタート前とゴール後のマスク着用が必須になりました。

西宮武庫川ハーフマラソン
（2021.10.31）

2020年はオンラインマラソンばかりで、モチベーションが下がり、2021年は貧血に悩まされました。たまたま近所にスポーツ内科があったことから、そちらでお世話になり、ドクターには貧血の治療、栄養士さんには栄養指導をしていただいています。

また、昨年は夏場に走りすぎて、秋に腰痛になってしまい、それ以降、体幹トレーニングにも力を入れるようになりました。その甲斐あってか、成人の日に開催された、枚方ハーフマラソンで自己ベストを更新することができました。今更ですが、努力の大切さを痛感しています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高43（平4卒）安達 宏昭（箕面市）

新型コロナウイルスの感染拡大が続いておりますが、私が取り組む研究にて、口腔ケアが重要であることを明らかにしましたので、ご紹介します。

この成果は、2021年12月25日のTBS「報道特集」にて全国放映されました。日本MA-T工業会のトップページ（https://matjapan.jp/）にて動画を公開しておりますので、ご視聴いただければ幸いです。

研究内容を簡単にご紹介すると、要時生成型亜塩素酸イオン水溶液であるMA-T（エム・エー・ティー：Matching Transformation system）は、日本で開発され、大阪大学にてメカニズムが解明された新しい除菌消臭剤です。

新型コロナウイルス（SARS-Cov-2）に対するMA-Tの不活化効果を確認すると、50 ppm (0.005%) で阻害効果が99.98%あることが分かりました。MA-Tはこの他の各種ウイルスや細菌に対しても高い抑制効果があることを確認できており、感染症対策として有効な液剤と言えます。

MA-T配合マウスウォッシュによる口腔ケアの臨床研究は、大阪大学にて推進中ですが、新型コロナウイルスを口腔内で受け取らない、増やさない、外にまき散らさないために、口腔ケアが大切です。まだ症例数が少ないですが、コロナ患者の口腔内ウイルスをMA-T配合マウスウォッシュによりゼロにすることができたことから、感染拡大防止にMA-Tで貢献できればと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

高68（平29卒）寺井 萌乃
（大阪大学大学院高等司法研究科）

＜起雲館和室から全国へ＞

みなさま、こんにちは。68期卒の寺井萌乃です。

2017 年度近畿双松会総会で小倉百人一首の読誦を披露した者と言えば思い出していただける方もいらっしゃるかと思います。あの当時は大学1年生でしたが、現在は大阪大学の高等司法研究科、いわゆるロースクールで司法試験に向けて勉学に励んでいます。

競技かるたも相変わらず続けておりまして、近畿双松会の時には無資格の読手でしたが、現在は全日本かるた協会A級公認読手の資格を取得し、競技かるたの全国大会で読手を務めています。

さて、2021 年 11 月 6 ～ 7 日に和歌山県で行われた全国国民文化祭「紀の国わかやま文化祭 2021」の小倉百人一首かるた大会にて、読手を務めさせていただきました。国民文化祭は国体のようなもので、毎年秋ごろ行われています。競技かるたも部門の一つとして名を連ね、毎年、都道府県対抗の団体戦を行っています。

私は選手としてはまだB級ですので、島根県代表としては出場できませんが、このたび、いつもお世話になっているかるた会様とのご縁で読手のご依頼を受けました。連絡をいただいたときには信じられない気持ちと、数多くいる読手の中から自分を選んでくださったという喜びで一杯になり、すぐさま承諾の連絡をいたしました。

コロナウイルス感染症の影響で、中止になるのではないかと心配していましたが、無事に開催することができました。当日は選手・読手・役員全員が和装で、試合風景はまさに圧巻でした。

私は一日目の 2 試合目と二日目の 1 試合目を読ませていただきました。国文祭は競技かるた界にとって大きな大会の一つです。全国各地から強い競技かるた選手が集まり競い合います。久しぶりの大規模な大会にかなり緊張してしまいましたが大会終了後、「いい読みでしたよ」とのお褒めの言葉や、「もっとこうするといいよ」と普段お会いできないたくさんの方々からアドバイスをいただくことができました。私にとってとても有意義な大会となりました。

大会の様子は YouTube にて掲載されていますのでもしよければ検索してご覧ください。なお、国文祭の他にも競技かるたのチャンネルで読手について私が出演しているものもございます。そちらも併せてご覧ください。

この国文祭には島根県チームももちろん参加しています。例年島根県チームは益田高校出身の方々で構成されていました。しかし、今年は北高の 2 年後輩でありA級の選手が登録されていました。彼女は高校時代からかるたが強かったのですが、九州大学でさらに強くなり国文祭の島根県代表として選出されたようです。久々の後輩との再会や高校時代からともに切磋琢磨してきた益田高校出身の友達、島根かるたの先輩方にお会いできて強く島根を感じることのできた大会ともなりました。

この国文祭は私にとって、とても感慨深いものとなりました。高校時代、私は高校総合文化祭、通称「総文祭」の読手コンクールで日本一をいただきました。総文祭は高校生のみの参加ですが、国文祭は全世代が参加できます。総文祭で読手をした 5 年後に国文祭で読手を務めさせていただいたことはこれからの読手人生の糧となりました。

7 年前に北高の起雲館で初めて読みをし、3 年間必死に練習をしていた自分に、今頑張ることで将来素晴らしい風景が待っていることを伝えてあげたいと思いました。

未だコロナウイルスが広がり、かるた大会も中止になることもしばしばですが、勉学と両立しつつ、競技かるたを一生続けていきたいと思っています。

松江北高校創立 145 周年記念双松会総会

令和 3 年 11 月 13 日 (土)

講演「島根創生と大学改革」（要約紹介）

島根県立大学理事長・学長
清 原 正 義（16期）

［略歴］1965 年松江北高卒（16 期）、京都大学教育学部卒、東京大学教育学部大学院満期退学。
兵庫県立大学教授、理事長兼学長を経て、2017 年から島根県立大学理事長兼学長。2014 ～ 2015 年度 公立大学協会会長。専門は教育行政。教育学博士 (京都大学)。

［事務局より］長く近畿双松会の会員である清原正義氏が、島根県立大学で郷里のために奮闘していらっしゃるご様子を標記講演で拝聴した。それは、島根県が抱える課題そのものへの挑戦で、その難しさを物語るものだったので、近畿の会員の皆様にもお伝えしたいと考えた。

原稿作成にあたっては、清原氏に原データをいただき、大変失礼だったが紙面の都合もあり、事務局の判断で割愛もさせていただき、「要約紹介」とさせていただいた。また、島根の将来のために県立大学のあり方を変革しておられる部分のサマリーはできるだけ掲載するようにした。

ご協力いただいた清原氏には心から御礼申し上げるとともに、会員皆様の島根の現状に対するご理解の一助になれば幸いである。（文責：事務局）

(注)「島根創生計画」：県がまとめた 5 か年（2020 ～ 2024）の県政運営指針。（中心は人口減対策）

■講演要約：

＜1＞自己紹介、北高・陸上部の思い出など

（略）

＜2＞島根県立大学の特徴

（1）浜田（本部）・出雲・松江の三キャンパス制

学生数約 2 千人（島根大学は約 7 千人）

○浜田＜総合政策学部を改編して、国際関係学部、地域政策学部の二学部＞
○出雲＜看護栄養学部、別科（助産師養成）＞
○松江＜人間文化学部、短大部＞

（2）県、自治体の支援

島根県からの運営費交付金は 21 億。財政規模上は大きな投資で、県民目線の運営や「島根創生」にいかに貢献できるかが問われる。

（3）三キャンパス制の特徴

浜田、出雲、松江の異なる地域性の中での運営はそれぞれの独自性、自律性も強く、苦労も多い。

一方、それぞれの自治体、地域の大きな支援があることも大きな特徴。コロナ禍での学生支援など、文字通り地域に支えられている大学。

（4）就職率の高さ

毎年の就職率は 98％と高く、学生、教職員の努力の反映。週刊東洋経済の臨時増刊号(2021.6.2)で、「本当に強い大学」ランキングで、島根県立大学は 139 位。(日本の大学数：770)

＜3＞島根県立大学で手がけたこと

■三つの骨子：

○**学部改編**（前記、総合政策学部の改編）
○**入試改革**（県内率の向上、高大連携型入試導入）
○**県内就職学生の支援**（奨学金の創設）

（1）公立大学の地域貢献

着任後すぐに、大学運営の基本方針として「地域貢献を第一と考える」とした。地方公立大学の将来を考えると、それ以外に道はない。
(浜田キャンパスで最初に手がけたのが、総合政策学部の改編)

（2）地域づくりコース

再編「地域政策学部」には新しく「地域づくりコース」を創設し、新しい教員を採用、高大連携型の入試や自治体との連携を新しいやり方で推進。

（3）入試改革（県内高校生の入学割合を高める改革）

公立大学入学者の県内率全国平均は 51％程度だ

が、島根県立大学は 40％くらいだった。大学進学者の 8 割が県外進学。県内高校生の希望者は多いのに、昨年は 350 人、今年も 260 人ほどが不合格になっている。

（4）「連携校推薦入学制」の導入

入試区分の内、「学校推薦型選抜」は県内高校に限定。それまで課していた共通テスト（センター入試）受験は「総合型選抜」も加えて撤廃し、専門高校からも受けやすくした。

学校推薦型選抜の中に「連携校推薦」制度を導入し、推薦された生徒が夏休みに大学生と一緒に「地域課題の実習」などをおこない、秋の成果発表で合否を決定。⇒（後記「ともに育てる入試」）

「地域づくりコース」入学 50 人中、20 人を「連携校推薦」にした。令和 4 年度入試では看護学科、健康栄養学科にも「連携校推薦」を導入した。

根強い反対はあり、学内意識改革には苦労。

（5）地域人材の育成

結果的に県内高校生の入学が増え、県内率は今年は 51％、なんとか全国平均まで到達した。

しかし、県立大学の入試改革は学力を軽視しているとの批判もある。私は受験学力ではなく、地域の課題に主体的に取り組もうとする人間力を見るべきで、高校からの推薦を活用するのが良いと話しているが、完全な理解は得られていない。

（6）共通テストの扱い

推薦系入試から共通テスト（センター入試）利用を撤廃したことは、普通科高校の先生からは根強い批判がある。普通科高校の教育方針が共通テスト受験を前提に成り立っているからだと思うが、実際には多くの生徒は、共通テストを課さない入試を受けている。

私は、むしろ普通科高校の教育方針が生徒の多様な能力を伸ばす方に変わって欲しいと願っている。ちなみに、近隣国公立大学の推薦系入試で共通テストを課すのは、医学部など一部に限られ、多くの大学では共通テストは課されていない。

（7）「ともに育てる入試」

今年の連携校推薦では、地域政策学部・地域づくりコースで 23 人がこの枠で入学した。出身高校は今までになく県内高校に拡がった。

これまでのところ、この 23 人は意欲的な学生が多いと聞いている。島根に愛着、誇りを持ち、「島根創生」を支える人材を長期的に育てていきたい。

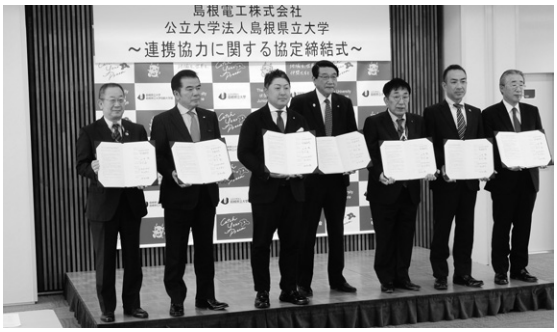
今までの入試は、大学側は「入れてやる入試」で、高校側は「入れたら（それで）いい入試」だった。これからは高校と大学が「ともに育てる入試」にしたい。

そのためには、高校と大学が信頼関係をもって、協力することが重要だが、これはまだ当面の課題。

（8）「しまね未来人財奨学金」

入試改革で県内入学者を増やした次は、県内就職者を増やすことが必要で、そのため県内就職希望学生に標記の奨学金制度を作った。

3,4 回生の一学年 10 人程度、年間 25 万円の給付で県内ならどこに勤めてもよく、返済は不要で、県内企業数社の賛同を得て順調にスタートをした。



県内企業と奨学金制度の連携協定締結式（昨年）

（9）県内就職支援

島根県の人口減の大きな部分は 18 ～ 24 歳の若者の進学と就職に際しての他県への移動で、進学はやむをえない層はあるが、就職については、もっと県内企業の魅力を伝えたり、希望者を応援するキャリア支援が必要。

県内企業、法人、NPOとの「有償インターンシップ」や、県、大学、企業団体が参加する「産学官人材育成コンソーシアム」の活動にも積極的に参加し、学生の県内就職を応援。

＜4＞「島根創生」と県立大学の関係・貢献

■三つの骨子：

○若者人口の流出対策

○地域を支える人づくり

○県立大学の地域貢献（地域人材の育成、地域の知の拠点、地域活性化に貢献）

（1）若者人口の流出対策

丸山知事が新しく策定した「島根創生計画」の中心が「人口減少対策」。

島根県人口は現在68万人だが、何もしなければ、将来50万人まで減ると予測。増田寛也氏の「地方消滅」（2014）では、島根県は女性人口の流出の結果、松江と出雲以外は「消滅可能性」があると言われている。

人口減少には少子化による「自然減」と県外流出による「社会減」があるが、問題になっているのは「社会減」で、島根県の高校生で大学進学を目指す人の80％は県外に進学している。

大学が少ないから仕方ないという見方が一般的だが、県内大学への進学希望があっても不合格者も多いという実態もあり、県立大学としては、前述のとおり、もっと県内の高校生を受け入れ、人口の流出に少しでも歯止めをかけるべきと考えている。

（2）地域を支える人づくり

県内就職を増やす取り組みは、前述のように様々に行われているが、問題は「どんな人材を育成するのか」にあり、「島根創生に向けた目的意識的な人づくり」が必要。

前述の「地域づくりコース」での「連携校推薦」によって、将来、島根の地域づくりを担う人材、出身の市町村の地区マネージャーとなれる人材を育てられれば、地域人材育成の新たな展開になると考える。

専門学校の生徒が、専門を生かしつつ県立大学に進学するキャリアパスもあっていい。入学できればいいではなく、その先にこういうキャリアがあるということを高校生に示す必要がある。

（3）島根県立大の地域貢献

島根県立大学の地域貢献については、今までに既に述べた。

付け加えることは以下の二点である。

①大学に集積された「知的資源をいかに地域に還元するか」

これも公開講座だとか行政の委員会等に参加するといった従来型だけでなく、自治体や企業と連携して社会実験的な活動をする必要があると考え、さまざまな挑戦も既にしている。

②大学の「サテライトキャンパスをいかに地域に広げるか」

大学のキャンパスは存在するだけで社会的、経済的効果があり、津和野での「研修施設」や大田市大森地区での「まちなか図書館」などを展開し、地元の皆さんと協力しながら地域づくりに協力しており、今後も拡げていく。

＜5＞ガバナンス改革（＝学長のリーダーシップ）

（1）副学長指名制：各キャンパスの代表

県立大学の地域的特殊性から、三つのキャンパスでそれぞれ副学長を教員の選挙で選んでいたものを学長の指名制とし、全学課題での学長リーダーシップを強化した。副学長にはキャンパスの総括者として、一定の権限を付与。

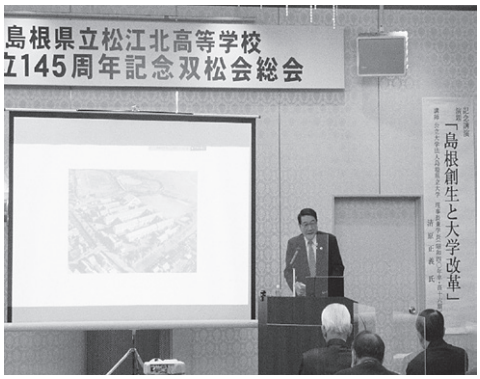
（2）県、県議会への説明責任

大学（自治）の自律（立）性は重要だが、県民の税金で維持されていることを腹に据えて、できるだけ機会をとらえ、県会議員の皆さんに県立大学を知ってもらい、私たちの考えを理解していただくことを基本に

おいて行動している。

（3）理事長と学長

理事長は経営責任を、学長は教学の責任を負い、互いに連携協力するのが理想だが、これはなかなかむつかしい。私もうまく使い分けるよう努力しているが、なかなかうまくいかないのが現状。



145 周年記念双松会総会で講演する清原氏

＜6＞松江北高生への期待

（1）「世界の人たれ」～地域を発展させる人

北高は島根県のリーディング・ハイスクールで、これからもそうあり続けるだろう。今、北高生には「世界の人たれ」という校歌の一節が目標として掲げられており、意味はあいまいだが何だか元気の出る言葉だ。

校歌がつくられた 1953 年（昭和 28 年）の、敗戦から立ち上がり国民が希望を持ちつつあった雰囲気がこの言葉にも現れている。高校生のときには歌いながらも意識もしていなかった、今、思うといい言葉だと思う。

しかし、私は、「世界の人たれ」は同時に「地域を担い、発展させる人であって欲しい」と解釈している。北高生には、それを強く意識して欲しいし、北高はそういう人材を輩出するリーディング・ハイスクールであって欲しいと願う。

（2）「地域の人としてのアイデンティティ」

言い換えれば、世界で活躍するには「地域の人としてのアイデンティティ」が必要であることを自分のささやかな経験からも強く感じている。

私も、大学の地域貢献を推進する立場からも、自分の研究の必要上からも、沢山の外国の都市や大学に出かけたが、結局、外国を知るということは日本を知ることであり、日本を知らなければ、外国はわからないと思うに至っている。

外国の人と付き合うと、いつも自分のアイデンティティは何かと考えさせられた。「地域の人としてのアイデンティティ」は大変重要で、森鴎外が「石見人、森林太郎として死にたい」といった言葉を私もかみしめている。

北高生に期待するとすれば、「世界の人たれ」と同時に「島根の、出雲の、松江の人としてのアイデンティティ」を持った人として活躍して欲しいということである。

＜7＞おわりに

北高は長い歴史を通して島根県のリーディング・ハイスクールであり続けている。今後とも生徒の皆さんや教職員の皆さんの努力によって、この伝統が守られることを祈っている。学区制の変更によって環境が変わるかもしれないが、南高、東高と切磋琢磨してさらに発展していって欲しい。

「世界の人たれ」をスローガンに、世界と地域が深くつながっていることを自覚して、生徒の皆さんが大きく飛躍されることを願い、私のつたない話を終えさせていただく。以上

［編集後記］

清原氏のお話は、ふるさとの実情にうとくなった我々にも、その重要さ、難しさを十分に伝えるもので、我々も母校やふるさとに一層関心を持ち、協力もしていかなければならないことをあらためて認識させられた。

言わば同窓の代表として、島根の将来のために奮闘されている清原氏に心からのエールを送りたいと思う。

北高「世界の人たれ講演会」で講演

令和３年３月23日(火)

「ベンチャースピリットが世界を変える」

安 達 宏 昭 (43期)

近畿双松会の松本会長からご推薦いただき、令和２年度「世界の人たれ講演会」で講演する機会を得ました。前年度はコロナのため中止になっており、新型コロナウイルスの感染状況が大変心配でありましたが、幸いにも予定通り令和３年３月23日に開催できました。

通常、北高体育館で開催されますが、密を避けるため、島根県民会館大ホール（定員1,722人）を使用することになり、広い会場で講演させていただき、大変光栄でした。

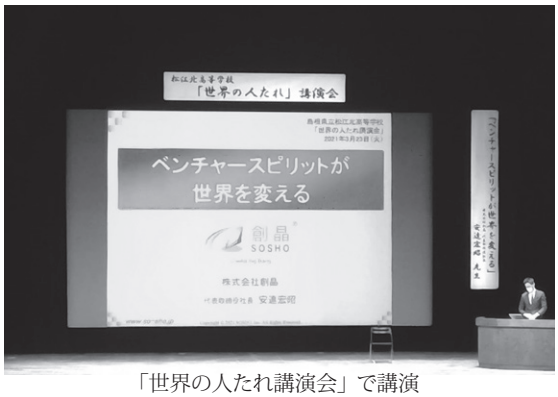
インターネット経由のリモートで講演する選択肢もありましたが、私としては直接、生徒さんたちに会って話したいと希望したため、北高の先生方には会場選びのご負担をお掛けしましたが、リアル開催で良かったと心底思います。

おかげで私の講演にも熱が入りました。当日は、１年生と２年生、そして保護者と教職員が間隔を空けて着席でき、感染対策としては十分でした。

講演日に向けて、私が大阪から島根へ移動するため、万全のコロナ対策が求められました。まずPCR検査による陰性証明が必要で、もし陽性と診断されたら、講演中止となっていたことでしょう。移動は人との接触を避け、自宅から島根県民会館まで自家用車を使用しました。

また、生徒さんとの接触もなく、講演台に立ったのみで、母校への訪問もなく、とんぼ返りで大阪に戻ってきました。久しぶりの帰省となりましたが、誰とも会うことなく、昼食に立ち寄った「中国山地蕎麦工房ふなつ」のお蕎麦が唯一の楽しみでした。

さて、講演タイトルを決める際、担当教諭から「講演内容は、ぜひ『世界の人たれ、北高生!』ということで大いに生徒を鼓舞して欲しい」と依頼されました。そういうことならと、「ベンチャースピリットが世界を変える」と大それたタイトルを提案したところ、「私たちが今、求めていることそのものです」と即決でした。



「世界の人たれ講演会」で講演

講演内容は、普段の社会人や企業向けの話をする訳にはいかず、高校生向けにアレンジする必要がありました。私の長女が高校２年生（当時）なので、ヒアリングしたところ「ポジティブで前向きな話が良い」とアドバイスを得ました。

さらに、北高生が聞きたい内容を選択するのが良いと考え、講演中に直接選択してもらうように内容を考えました。

講演当日、以下の４つのテーマを提示しました（カッコ内は私の肩書）。

① 志望大学に合格するための方法

（大阪大学　特任教授）

② 異分野連携による革新技術の創出～自分のやりたいことで社会貢献する方法

（株式会社創晶　代表取締役社長）

③ コミュニケーションスキルを高める方法

（社会福祉法人あおば福祉会　理事）

④ オールジャパン体制による産業創造～がっちり儲ける方法

（一般社団法人日本 MA-T 工業会　専務理事）

それぞれのテーマのイントロとして、私が経験してきたことを簡単に紹介した後、生徒さんたちの多数決を取りました。

私の予想では、①の大学受験の話題が圧倒的多数で選出されると思っていましたが、意外にもほぼ均等に希望が分散されたため、選ぶことができませんでした。

そこで、生徒会長に一任して選んでもらいましたが、まさかの＜④＞になりました。副題で付けた「がっちり儲ける！」が心に響いたのかもしれません。ある意味、北高生はしっかりしているなぁと感心しました。

当初の予想に反した結果でしたが、「ポジティブで前向きな話により、北高生を鼓舞する」を念頭におき、ベンチャースピリットに係る私の体験や経験に基づく話をしました。

主にメンタルのことを話題にしたので、高校生にも参考になったのではないかと思います。

要約すると、

① 失敗を恐れずに、チャレンジを続ける！

② 何事も経験と思い、いろいろと行動する！

③ 毎日を大切に過ごし、人生を楽しむ！

……が、北高生に伝えたかったことです。

私の言葉では、北高生の心に響かないかもしれないので、激動の時代を生き、多くの功績を残した渋沢栄一氏が残した言葉から、

① 自分の足で立って生きよ

② 順境も逆境も自分が作り出すものである

③ 大きな目標へ、ゆっくり急げ

……を紹介し、道を切り拓くことを勧めました。

そして、最後には北高生と相互に対話しながらメンタルトレーニングを実施しました。

日本人は否定形を多用する傾向にあるため、否定的な表現を肯定的な表現に変換する問題を提示して、順番に答えてもらいました。

例えば、

「忘れ物するな」→「用意できた？」

「遅刻するな」→「時間通りに来てね」

「喧嘩するな」→「仲良くしましょう」

……のような言い換えです。

忘れ物や遅刻などの失敗したイメージを想起させるのではなく、あるべき姿や結果を示すことで、その達成確率が向上することを伝えました。

実際にやってみると、生徒さんが回答に窮する場面もありましたが、大いに盛り上がりました。この体験が、前向きに考えるきっかけとなり、物事の捉え方を変える気づきになれば幸いです。つまり、置かれている状況は同じでも、捉え方次第で人生が変わることを北高生が感じてくれたら、私の講演は大成功だったと思います。

『世界の人たれ、北高生！』を応援する北高卒業生の一人として、世界に羽ばたき活躍する北高生が多数輩出されることを期待しております。

今回、講演の機会をいただき、関係者の皆様に改めまして感謝申し上げます。また講演する機会があれば、準備していた別テーマの話題提供ができれば嬉しいです。

講演後、生徒さんから花束をいただきました。

自由投稿　「秋の歌」

以下に、11 名の方々の「自由投稿」を掲載します。「近況報告」同様、ご投稿時期は昨年秋口から本年までの長い期間にわたりますので、それぞれ季節背景が異なることはご承知ください。

「秋の歌」

堀江　眞三人（２期）

１、青空高く澄み渡り　　千切れた雲が流れゆく
　　甲子園は秋の中　　伝統の地にそびえ立つ
　　若者たちの夢のあと　　歓声今は静かなり
　　強い香りに気がついて　　見つけた垣根の金木犀

２、みかんは熟れて色が付き　　赤い柿売る出店あり
　　早くもテレビは錦秋の　　山の便りを伝え来ぬ
　　日本の四季の鮮やかさ　　秋に優れるものは無し
　　人目に触れず庭の隅　　ひっそり香る金木犀

３、日暮れは早く暗くなり　　駅の前だけまだ明い
　　家路を急ぐ足並みに　　薄着に冷える夜の風
　　高い香りが漂いて　　探せば軒先金木犀
　　花の命は短かけれ　　香り尽くせや金の花

○○新聞の「秋の歌」に応募した作品ですが、惜しくも入選ならず佳作３品の中に入りました。

選考者の選評は「大変きれいに仕上げてありますが、きれい過ぎて生活の苦労、哀歓、斗争、社会観と言った人間の生活感情が聞こえて来ません。もっと人生の現実を歌い込んでは如何」だと。

私は秋特有の自然の中に自分を置いて、季節の美を歌い込んだつもりです。時には人間臭さを離れて見てもよいのでは。

「しめ縄の話　あれこれ」

佐和田　丸（10期）

写真は、大阪市生野区にある彌榮（やえい）神社である。私のふるさと飯南町産の大しめなわが飾られている。これが縁で、崇敬社のひとつに加えて加護をお願いしている。

神祖・須佐之男命を文禄年間に熊野神社（旧出雲国意宇郡）より分霊奉還したのが始まりと旧記にある。それ故に、近畿在住の松江関係者にとっては、崇敬社にくわえたい神社に推奨したい。場所は、環状線鶴橋駅から約 10 分、交通至便の場所にある。

大しめ縄は、出雲大社と同じく左元となっている。一般の神社と異なり、左元を上位とする。写真は、地元町から送られてきた PR 冊子「島根県飯南町と大しめ縄」から転載したもの。神社 HP からも見られるが、大しめなわが少し見えにくいので、同冊子から借用した。

また、同神社には、今は各地の神社でよく見かける普通の狛犬がおかれているが、創建当時には、神社正面におかれていたと思われる構え型「出雲狛犬」が境内の側参道に鎮座している。これも一見の価値がある。

考えてみれば、わざわざ「出雲狛犬」と銘打った狛犬が存在することは私ども出雲関係者にとって名誉なことで喜ばしいことである。現在は来待石で山陰地方でつくられていると何かで読んだ。来待石は細工しやすいが、長期の保存には問題点があるようで、出雲狛犬は絶滅危惧種と言えなくもない。写真の「出雲狛犬」は同神社の HP から転載した。今にも跳びかかる姿が特徴的である。同神社の詳細は HP で。

そもそも、しめ縄とは何か？　しめ縄とは、神前や神域など清純な場所を示すため、しめ縄を張り巡らせることによって境界を示し、出入りを禁止することを表している。

特に神事においては神様が占める神聖な場所を区画するために用いられた。また、しめ縄には「注連縄・一五三縄・七五三縄・標縄・締縄」など、様々な表記がある。漢字で書く場合、一般的は「注連縄」という文字が用いられるが、「一五三」「七五三」は縄から垂らすわらの節の数から、「締縄」や「標縄」は音や意味から漢字をあてたものだと考えられている。

「**身近なしめ縄**」・・。私たちはいろいろな場所でしめ縄を見かけている。神社で見かけるしめ縄は、神様を迎えるたびに、祭りのたびに張り巡らされていたものが、いつのまにか常に張られるようになり、神様の居場所をあらわすものへと変化した。しめ縄には明確な規定がないため、神社によって独自の形式のしめ縄が使われている。

力士がまわしにつけているのもしめ縄である。横綱は、力士を代表するものと、同時に神の領域にいるものとして神格化されたことから、番付最高位の横綱だけが、ま

わしに「横綱」をつけることが許されている。お正月に、家の玄関先で飾られる「しめ飾り」もしめ縄から派生したもので、「としがみ様（新しい年の福を授ける神様）」を迎える準備として、古くから日本人のお正月になくてはならない存在となっている。

「**しめ縄の由来**」・・。しめ縄の起源は諸説ある。一般的に知られているのは、「古事記」「日本書紀」に登場する「天の岩戸伝説」である。

天照大御神が天の岩戸から出て、世界が再び明るさを取り戻した時、二度と岩戸にもどらないよう、岩戸に「尻久米縄」（しりくめなわ）と呼ばれる縄を張った。これがしめ縄の始まりといわれている。

そのほか、「稲作信仰」「中国伝来」などの説もある。

「**稲作信仰説**」・・。その昔、縄の材料は刈り取って干した稲わら、または麻であった。しめ縄の形が、二匹の蛇が絡み合う姿を連想させることからも、しめ縄には五穀豊穣の願いが込められていると考えられており、稲作文化と関連の深い風習ではないかと言われている。

「**中国伝来説**」・・。「注連縄」という漢字表記にもしめ縄の起源が関係していると考えられている。「注連」とは中国に古くからある縄の呼び名で、人がなくなった後、家の入口に清めの水を注いだ縄を連ねて張る風習から、中国では、その縄を「注連」と呼んでいる。死者の霊魂が再び家に戻ってこないようにとの意味を持っており、「注連」が日本のしめ縄と同様に結界の役目を果たしていることから、日本のしめ縄のルーツは、この「注連」にあるとも考えられている。

出雲大社本殿の横にある「神楽殿」は、本来、出雲大社宮司である千家国造家の大広間として使用されており、「風調館」と呼ばれていた。昭和 56 年に出雲大社教が特立 100 年を迎えた際に、規模を拡張し現在の神楽殿として建て替えられた。その大広間は 270 畳の広さを誇り、教会ならともかく神社建築には珍しく正面の破風の装飾にステンドグラスが用いられている。

先日、コンビニに立ち寄ったら、恵方巻きずしに並んで、恵方スイーツのカタログがおいてあった。出雲大社は、時代を先取りした存在であったと言えるかもしれない。神楽殿の大しめ縄を見学された後は、ステンドグラスの鑑賞もお忘れなく。

正面に掛けられている大しめ縄の長さは約 13 m、重さ 5 t にもおよび、この大しめ縄は数年に一度、新しいものと掛け替えられる。そして冒頭に記したように、一般の神社が神様に向かって右を上位、左を下位としていることからしめ縄も右がない始めで、左がない終わりだが、出雲大社のしめ縄をよくみると、逆になっている。どうして出雲大社は左元なのか。古来より他の神社とは反対に左を上位、右を下位としていた。また、江戸時代の祭事の記録では、神様へお供え物を進める際、上位のお供え物を向かって左、下位を右へ進める作法となっている。出雲大社で左元のしめ縄がかけられているのは、これらの理由が考えられると思われてきた。他説もある。

飯南町の大しめ縄は、国内はもとより遠く外国まで奉納されている。関西で主なところは、① 彌榮神社（大阪市）②阪神分祠（尼崎市）③京都分院（亀岡市）④近江分院（大津市）⑤鹿島神社（加古川市）⑥熊野本宮大社（田辺市）など。関東で主なところは、①常陸国出雲大社（茨城県笠間市）②大畑香取神社（埼玉県春日部市）③ 秩父宮ラグビー場（東京都港区）④アクアシテイお台場神社（同）⑤相模分祠（泰野市）⑥六所神社（大磯町）などである。

加護を求めて参拝されるときは、大しめ縄が左上位になっていることに注視されるとともに、大しめ縄の聖地飯南町のことに思いを馳せていただければ幸いである。

（参考文献）「島根県飯南町と大しめ縄」他。

飯南町大しめ縄創作館

「コロナ下にも楽しみあり」
―オリックスのパリーグ制覇を見届ける―

押田　良樹（11期）

令和３年は前年に続きコロナに明け暮れた年だった。不謹慎な言い方かも知れないが、コロナは悪いことばかりでもない。私の場合は、PITAPA 利用ほぼゼロの毎日のおかげで、好きな野球のテレビ観戦を堪能できた。

小学校５年生の時からの阪急ファン、オリックスに変わってからも勿論変わらずファン歴 69 年、年間を通してこれほどチームの戦いに密着したのは初めてである。

ケーブルテレビに加入しているので、オリックスの試合はホーム・ビジターを問わず、いずれかのチャンネルで必ず放映される。サンテレビでたまに中継があった昔とはえらい違いである。

本来であれば、シーズン 143 試合すべてを見ることができたはずだが、実は１試合見逃してしまった。8 月 31 日札幌での日ハム戦、夕方いつものようにテレビのチャンネルを合わせると様子がおかしい。なんと、この日はデーゲームで既に終わっていたのであった。真夏に昼間の試合など予想もしなかったのが大不覚の原因であった。

チームは６月初旬まで例年通りの借金生活で下位に低迷していたが、交流戦が主体になる６月に入ると、6 日から 23 日まで 11 連勝の快進撃で一気に借金返済、貯金を増やし６月 20 日には遂に首位に立った。何年ぶりのことだろう。

交流戦も 12 勝５敗で 10 年ぶりに堂々の優勝を遂げた。この６月の 16 勝４敗という戦績がシーズン優勝を決める大きな要因となった。７月、８月は計 12 勝９敗で乗り切り、首位をキープしていたが、９月に入り主砲吉田正尚が足の捻挫で 16 試合欠場したこともあり低迷、その間に好調ロッテの猛追を受け９月８日には遂に首位の座を明け渡してしまった。９月 15 日にはロッテに４ゲームの差を付けられ、残り 30 試合、頼みの吉田の不在もあり、念願のＶ達成には赤信号に変わりかけた。

しかし、26 日に待望の吉田が戦列復帰、28 日からのロッテとの３連戦を３連勝して一気に差を詰め、遂に 10 月１日には首位を奪還した。

ところが、なんという不運か、その翌日のソフトバンク戦で吉田が死球を受け右手首骨折と判明、再度の戦線離脱となりシーズン中の復帰が絶望視される事態となった。しかし、残り 16 試合を吉田を欠いたチームは文字通り「全員で勝つ」を合い言葉に一丸となって戦い、10 月 26 日のシーズン最終戦はエース山本が楽天を完封して、吉田不在の 16 試合を８勝６敗２分けで乗り切り、首位を堅持してシーズンを終えた。

この時点でロッテはなお３試合を残しており、１敗すればオリックスの優勝、１敗もしなければロッテの優勝という稀に見るスリリングな最終盤の展開となった。そして、27 日の楽天対ロッテ戦は 2-1 で楽天が勝利し、ここにオリックスの 1996 年以来 25 年ぶりのリーグ制覇が確定したのである。思い出しても実に緊張の日々だった。

オリックス優勝の要因はいろいろあるが、私は次の点を挙げたい。

1. 中嶋聡監督の手腕

中嶋監督は前年シーズンの途中、成績不振で辞任した西村監督に代わり二軍監督から昇格して就任したのだが、二軍で選手の力量をよく把握し、一軍に引上げた選手たちが期待通りの活躍をした。現役生活 29 年の経歴に裏付けられた選手掌握術は見事だった。

2. 絶対的エース山本由伸の存在

シーズン当初はなかなか勝ち星がつかなかったが、5 月 28 日から実に 15 連勝、６月から４ヶ月連続月間 MVP を獲得、投手成績のタイトルを総なめにする大車輪の活躍だった。大事な試合で勝ちを計算できる投手がいたことは大きな強味だった。

3. 杉本祐太郎の開花

ラオウの愛称ですっかり有名になったが、入団時一緒に自主トレしたイチロー氏から、驚異の長打力を保障されたパワーに確実性を加え、入団５年目にして遂にその才能を開花させ本塁打王を獲得した。ここぞという場面での一打が期待できる頼もしい４番打者に定着した。

4. 新１・２番打者の定着

開幕後暫くは１・２番が固定できなかったが、５月中盤から福田周平、宗佑馬の１・２番が定着しクリーンアップにチャンスを繋ぐ場面が増えた。

福田はレギュラー獲得のため志願して内野から外野へ転向し、しぶとい先頭打者として機能した。

宗は福田とは逆に外野手から三塁手にコンバートされ見事に攻守に開花した。この新１・２番コンビの活躍は優勝に大きく寄与した。

5. 若手投手陣の台頭

２年目の宮城大弥の活躍は期待を上回るものだった。幼さの残る雰囲気からは想像できない巧妙且つ大胆な投球術で 13 勝４敗の見事な成績を残し新人王を獲得した。

そのほか、田嶋大樹、山﨑福也の両左腕も共にキャリアハイの勝ち星を挙げた。山本とこの３人が長いシーズン中故障もなくローテーションを守ったことは他球団に比べて優位に立てた大きな要因の一つである。

以上は、昨季までと顕著に変わった戦力面の印象であるが、打の大黒柱吉田正尚の主砲としての変わらぬ活躍、チャンスに強いベテラン T- 岡田、メジャーから復帰のクローザー平野佳寿、平野に繋ぐ中継ぎ投手陣、投手陣を支えた３人の捕手陣、その他全員の働きがあったことは勿論である。

クライマックスシリーズでは、ファーストステージで楽天を破ってファイナルステージに勝ち上がった宿敵ロッテを無敗で退け、日本シリーズに臨んだ。相手はヤクルトスワローズ、奇しくも昨年リーグの最下位だったチーム同士の対戦となった。セリーグの試合はほとんど見ておらず、「弱いヤクルト」のイメージしかなかったので、日本一の可能性が高いと期待していたが、予想外にヤクルトは強く日本一は叶わなかった。

しかし、チームには日本一を争う力が備わったと確信し、2022 年のシーズンを期待している。

私の周囲には阪神ファンが多い。中でも当会会長の松本耕司氏は相当熱心な阪神贔屓である。阪神はシーズン当初から快調に首位を走った。

かつて阪急が西宮球場を本拠地にしていた頃、かんべむさしという SF 作家が「今津線シリーズ」と名付けて書いた「決戦・日本シリーズ」という作品があったが、その実現にはならなくても、オリックスとの関西シリーズになれば大いに盛り上がるだろうと期待していた。

しかし、阪神はオリンピック開けの８月後半、最大 18 あった貯金を 13 に減らし巨人に首位の座を明け渡してしまった。その後首位に返り咲いたが、今度は凋落した巨人に代わってヤクルトが猛烈な快進撃を演じ、９月 22 日には遂に勝率で阪神に代わりトップに立った。10 月に入り阪神は追撃したがヤクルトも譲らず最終的にはゲーム差なしながら引き分け数の関係で勝率ではヤクルトが上になり涙を飲む結果となった。

シーズン中、松本会長とは折に触れ、お互いを慰め、励まし（「長崎の鐘」のようだが）あってきたが、最終的には松本会長は「慣れています、人生は修行の連続です。寅年は来年ですので」と意外と冷静であった。会長は藤浪晋太郎の復活と佐藤輝明の活躍を一番願っているようだ。私もそれを願っている。

野球に興味のない方には全く関係のない話で、改めて自分の「のぼせもん」振りには呆れる思いである。このようになったルーツ、昭和 28 年小学５年生の時、初めて西宮球場で阪急の試合を見てからの「私の阪急・オリックス物語」はまたの機会に改めて書いてみようと思っている。

「丹波黒豆を作って20年」

湯川　好満（11期）

丹波市で農生活を始めてから 20 年目になります。農家の好意で草刈りを条件に一反半の畑を借りて丹波の名産、丹波黒大豆を主に作っています。

初期の頃は猪の心配は何もなく普通に耕作していました。数年たった頃にジャガイモを 20 m、二畝植えた収穫前に、畝の真ん中を溝を掘ったように掘り起こされて、ジャガイモは全滅でした。

サツマイモも一畝、7 月のまだ小さい実の頃、同様の目に遭いました。ご近所からは随分早く収穫したね、と勘違いされました。

それ以後は 20 mのネット 2 枚で四角に囲い、その中で植えることにし猪の被害は無くなりました。

丹波黒豆は 6 月 10 日頃に種を蒔いて 13 日後に苗を移植します。以前、白大豆を直播したら発芽しないので 2 回程蒔き直しをしましたが、発芽したての芽が鳥に食べられているのがわかりました。それからは苗を移植する様にしました。

直播で「鳥の忌避剤（商品名：きひゲン）」を種の周囲にまく方法もありますけど結構手間がかかります。

7 月中頃には草の丈が黒豆を覆うようになるので、畝間の草刈りをして枝葉に太陽光が当たるようにし、枝の倒伏を防ぐために土寄せします。

8 月 8 日頃に小さな紫色の花が咲き、一か月間、次々に花が散り咲きを繰り返します。その中の一部分が実になり、9 月 9 日頃に莢になります。

10 月に入ると莢の実がふくらんできます。我が家では 10 月 25 日頃にパンパンに膨らんだ頃に収穫します。JA 等では 10 月 10 日頃に早めに販売しています。

11 月に入ると豆の色が赤紫に変わります。黒豆の色は青→赤→紫→黒と変化して 12 月に入ると黒大豆になり、正月用の丹波黒豆として有名です。

我が家では、11 月に入った頃の赤紫の豆が、歯ごたえがあり甘みが増して大好物です。

去年は黒枝豆 100kg、黒豆 40kg を収穫しました。マンドリン仲間や尺八仲間にも安くあげて、収穫した黒豆は全部さばいています。

虫は豆類が好物で、7 月から 8 月に樹葉を元気にするために、葉に虫がこないよう「ストちゅう（酢と 30 度以上の焼酎と煮詰めた唐辛子液を水に混ぜたもので殺虫剤ではない）」を散布、9 月から 10 月に実が入った頃にも虫よけに「ストちゅう」を散布しています。連作障害を防ぐために気を使います。

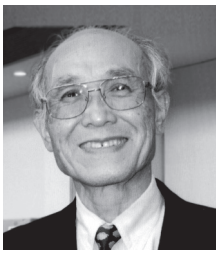
ほかには、毎年ニンニクや空豆も栽培して楽しんでいます。黒ニンニクは古くなった炊飯器の保温で 2 週間かけて、発酵でなく完熟させます。昔の炊飯器は保温が 96 時間 (4 日連続) ですが最近のは二日位で切れてしまいます。

田舎暮らしや農業は元気でないと出来ないし、楽しくありません。

これからの農業は若い人が増えていくように、また働く若者が経済的に安心感の持てる雇用で、夫婦二人で頑張る気持ちになれるようにすることが、第一の少子化対策になると思います。我慢を強いる一方で、一部の儲けに金をつぎ込む政策は少子化対策に逆行しているように見えます。

命あっての世の中だと、最近つくづく思うようになりました。

「言葉の力こそが生きる力」



2021.10.17 記

山本　輝夫（１２期）

世に政治家は「言葉が命」とも言う。

＜ 2020TOKYO 五輪・パラリンピック＞のレガシー（遺産）は「言葉の力」だと感じた。コロナ禍の影響で一年延期の上に無観客での開催となったにもかかわらず、国内はもとより世界各国からも全般に好評で、国民の一人としても安堵。

中でも、パラアスリート達の活躍とインタビューでの“言葉”に感激し、老体の身にも心の変化を生ずる程、偉大なレガシーで最高のプレゼントをいただいた気分です。

格別印象深かったのは、水泳女子史上、最年少メダリスト（背泳 50m、100m）山田美幸さん（14 歳、中 3）は、両腕が無く、肘にも障害があるが巧みなキックで 2 個の銀メダルに輝いた。笑顔の絶えない少女の座右の銘は、何と“無欲は怠惰のもと”であると。かつて、「パパはカッパだったんだよ」と言っていたのを思い出し、天国のパパに向かって「頑張りました。私もカッパになったヨ!!」と伝えたいとのコメントには、こちらも思わず涙・・。将来の夢は外交官になる事とも。僕も生きてる限り京都から北陸の空に向かってエールを送り続けるし、神の加護賜わらんことを祈ります。

日頃、「泳ぎ」をジムメニューに組み込んでいる身には美幸さんの泳ぐ姿に驚きと勇気を貰い、今やパワーの源です。

他にも 50 歳の自転車女子金 2 個の杉浦圭子さん。高次脳機能障害を抱きながら、日本勢史上“最年長”のメダリストになり、発した言葉は「“最年少”記録は二度と作れないけれど、”最年長“記録は”また作れる“」。痛快なコメントでファイトを貰った。

パラリンピアン達の躍動は、苦難に粘り強く立ち向かい、多様な個性を認め合う学びの契機になったと同時に、自らを省みる機会にもなった。

パラ大会創始者のグッドマン博士（英）の「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」の言葉を体現し、障害の壁を乗り越える力に魅了された。

以上で締め括ろうとしていたところに、又々、ビッグニュースとレガシーとなる言葉が。

90 歳と小生よりも一回り上の真鍋淑郎博士（米国在住、プリンストン大学上席研究員）にノーベル物理学賞（気象学）授賞の報。記者会見で「ビッグサプライズ!」と発し、「好奇心を持ち続けた事が研究の原動力だった」と。

冬場に向かい、コロナ第六波も気になるところだが、明るいニュースに前途の光明を見出し、一日一日を大切に充実して生きたいものです。

前号（2020 会報）佐和田丸氏（10 期）「松江の地名由来」寄稿文を拝読し、目からウロコの興味ある論考で勉強になり、故郷への思いが一層強くなりました。若い頃、和歌山勤務（3 年）の経験もあり、和歌山市に松江地区が在り、何か因縁があるのかな？と思った時に深く探求しなかったことが悔やまれる。

歳を重ねる毎に、松江・島根の活字、ニュースに一喜一憂する度合いも大きくなりましたが、直近の嬉しい“故郷便”は、厚労省発表（9 月 15 日時点）での、「人口 10 万人当たりの百歳以上者（百寿者）の人数」で、島根県が 5 年連続トップの「139,75 人」と。（因みに、わが街、京都市中京区は人口 10.95 万人中、百寿者は 46 人）

いかに故郷の実績が偉大なものかと誇らしく、水と空気が良く、山海の新鮮な食材と大自然がもたらす美味の宝庫で、人柄もおおらかでゆったりした性格・・

♪故郷に帰ろかなぁ・・♪　“だんだん”

「力士の給与」

梅木　隆志（16期）

相撲に興味をもって場所ごとにテレビ桟敷で観戦している方は…、特に隠岐出身の「隠岐の海」が幕内にいるので…、多いと思います。

プロ野球の選手の年俸は推定ですがマスコミ報道などで知ることができますが、力士の給与・手当等・報奨金・優勝賞金・懸賞金についてご存じの方は少ないと思います。下記にその概要をまとめてみましたので、興味ある方はご覧ください。

（冊子「大相撲の経済学」から、金額等は現在値）

◎給与：

1、横綱：約 300 万円、大関：約 250 万円、三役：約 180 万円、平幕：約 140 万円、十両：約 110 万円

◎ボーナス：

9月と12月に給与の1か月分。(幕下以下の力士には、給与はないが場所ごとに手当などがある)

◎本場所による手当等：

1、出張手当：十両以上（地位により異なる）

3 月（大阪）・7 月（名古屋）・11 月（博多）の地方場所（要は二場所に 1 回）に 35 日分×【宿泊費（約 3000 円～ 9000 円）＋日当（約 1000 円～ 3000 円)】が支給。

2、本場所特別手当：小結以上

横綱：20 万円、大関：15 万円、関脇・小結：5 万円、＊給与がない幕下以下には 5 万円(幕下)～ 7 万円(序の口）の手当がある

3、報奨金：十両以上

「持ち給金（過去の下記金額の累計）× 4000」の金額が年 6 回の場所毎に貰え、第 2 の給与とも言える。

＊「持ち給金」の定義：十両以上での場所ごとの勝ち越しの星数（勝ち数マイナス負け数）1 個につき 0.5 円＋金星一つにつき 10 円＋幕内優勝 30 円（全勝の場合 50 円）

＊負け越しの場所があってもマイナスは無く、持ち給金が下がることはない

＊金星を 1 個取れば、現役中、休場しない限り年 24 万円は貰えることになる

＊ちなみに千代の富士の引退前の場所の報奨金は約 3500 万円（年間にすれば、6 場所で約 2 億 1 千万円）

◎優勝賞金：

幕内：1000 万円、十両：200 万円、幕下：50 万円、三段目：30 万円、序二段：20 万円、序の口：10 万円（幕内の「殊勲賞・敢闘賞・技能賞」：各 200 万円）

＊幕内優勝には、副賞としてスポンサーから金一封及び各種賞品がある

◎懸賞金：

1 本 6.2 万円（内訳：力士の受取額 3 万円、協会事務費 0.53 万円、力士の所得税の預かり金 2.67 万円）

◎以上が「力士の給与」で、その他、「相撲部屋の収入」、「年寄の給与」については下記のとおり。

＊相撲部屋の収入：

- 場所ごとに部屋維持費：弟子一人、115,000 円
- 場所ごとに稽古場経費：弟子一人、45,000 円
- 力士養成費：幕下一人、毎月 70,000 円
- 養成奨励金：十両一人、年額 114 万円、平幕一人、年額 126 万円、三役一人、年額 156 万円、大関一人、年額 216 万円、横綱一人、年額 276 万円
- 上記以外にタニマチからの収入がある。

＊年寄（年寄株数：105）の給与：

- 理事：2135 万円、監事：1892 万円、委員：1539 万円、主任：1326 万円、平年寄：1236 万円

以上

相撲界は力士総数約 650 人で、上記のように十両以上の約 70 名しか給料が出ない厳しい世界であり、「地位は実力次第」と昔から言われている。

しかし、一方で、プロ野球のような戦力外通告や年俸の大幅ダウンもなく、十両以上を長年確保し、毎場所勝ち越せば「持ち給金」が増え、給与が上がる仕組みであり、年功序列的要素も大きい。

我らが隠岐の海も36歳と最年長クラスで、「持ち給金」もかなりの額と推定されるが、幕内で相撲が取れる以上は、まだまだ引退しないのではないかと思いながら応援をしている。

私もいつもテレビ桟敷で観戦しながら、取り組み前にそれぞれの持ち給金がテレビで映し出されれば、新たな興味も湧くのにな、などと考えているが、この投稿が、相撲ファンの皆様の何かのご参考、新たな楽しみ方につながれば幸いである。

畏兄 山口信夫氏著書（三作目）のご紹介
「山陰最後の殿様 定安と慶徳」

松本　耕司（16期）

山口信夫氏のことは 2016 年の近畿双松会の総会にご出席いただき、「オンジョとりの唄」をご披露いただいたのでご記憶の方もあろうかと思う。

同氏は 1943 年川本町のお生まれで、島根県警本部の交通部長・刑事部長などを歴任された。演劇、声楽、絵画、柔道を愛好され、合唱団、環境市民団体での熱心なご活動を続けるかたわら、著作活動にも励まれ、私は奥様が北高同期であったことからご縁をいただいた。そのご活動は、まさに畏兄と呼ぶにふさわしい方である。

「松江三部作」とも言うべき、2016 年の第一作目「**国宝松江城秘話 誇り高きのぼせもん**」は、明治維新に廃城の危機にあった松江城を救った雑賀の元足軽高城権八夫婦と、斐川の豪農勝部本右衛門親子の陸軍省広島鎮台との涙ぐましい闘いの軌跡が描かれ、我々は先人の努力に感謝し、松江城を市民挙げて大事にしなければならないことを教えてくれた。

2018 年に刊行された第二作目「**松江藩栄光への道　律儀者と不味さん**」では、“ご滅亡” とまで言われた藩の財政危機を、律儀者と言われる家老朝日丹波と七代藩主治郷（不味公）が立て直し（御立派の改革）、やがて日本一豊かな藩になっていく過程が描かれ、現在の松江の文化風土がここに築かれたことを忘れてはならぬと教えてくれている。

その頃になって、漸く私も山口氏の著作過程は、専門家でないだけに、綿密な文献調査、現地踏査の上でのことと知った。言わば身を削る作業をしておられ、第三作目を手にした時には、ご年齢も考え、思いの深さと意志の強さには本当に驚いた。

その第三作目が「**山陰最後の殿様 定安と慶徳**」で、将軍慶喜の異母兄として水戸家から入り、鳥取藩最後の藩主となった池田慶徳公と、親戚藩である津山松平家から松江藩に入り松江藩最後の藩主となった松平定安公の二人が主人公で、そのまま「激動の山陰維新史」となっている。

鳥取藩における激しい佐幕・勤王の藩内抗争…。松江藩における山陰道鎮撫使事件、特に薩長から突き付けられた「松江藩家老の切腹を含む謝罪の四箇条」での「家老の切腹」は慶徳公の計らいですんでのところで免れるが、今度は松江藩の長年の失政による「隠岐騒動」が定安公の手足を縛る様子・・が、息をも継がせぬ展開で描かれていく。

特に、徳川親藩であるが故に懸命の努力をしながらも、時代の波から見放されていく定安公の心情が活写されていることに心を打たれる。

左から三作目、二作目、一作目

歴史の評価では、慶徳公は優柔不断、定安公はくそ真面目と言われて高くはないようだが、果たしてそれだけであろうか。山口氏は定安公が選んだ不戦の道の選択が、国の分断の回避に大きく貢献したと考えているようだ。

定安公が現実に松江の街と人を戦禍から守った事実は、第一、二作に続いて、ここにも松江の大恩人がいることを山口氏は教えてくれている。勿論、家老の切腹を防いでくれた慶徳公も。

定安公は明治になってからも、様々に松江のために尽くされたと聞き、私も定安公生地の津山には足を向けて眠れないな、などと考えている。

山口氏の近影（通学見守りボランティアでも奮闘）

山口氏は三作品を通じ、今日の松江をつくった大恩人たちを松江の関係者には知ってもらいたいという思いを強く持って著作されたことが伝わってくる。近畿双松会の皆様にも機会があればお読みいただければと思い、ご紹介する次第である。

※発売は「今井出版」。アマゾンで購入可。一作目：在庫ナシ、二作目：1870 円、三作目：2200 円。
問い合わせは私まで⇒ k-matsumoto@hi-ho.ne.jp

「地域医療に携わった目から見た新型コロナワクチン等の新薬開発」

森藤　哲章（16期）

中学生の頃から医者になることを夢見ていた私は松江北高校に入学 (16 期) しました。ところが、入学後の学業成績はさんざんであり、困ったことに、普通の家庭にとって私立医大への入学は不可能な状況にありました。そのため高校時代はがり勉に明け暮れ青春時代のほのぼのとした雰囲気は物陰からのみでした。勉強の邪魔になるからとの思いから、同級生の女性達にも一切声をかけず (かけてもらえず)、一点でも点数が上がるようにと必死に勉強に励みました。

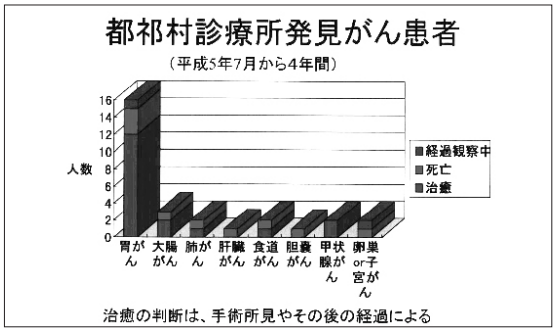
北高 1 年；渡部俊太郎君（右）・田中富士夫君（中）と

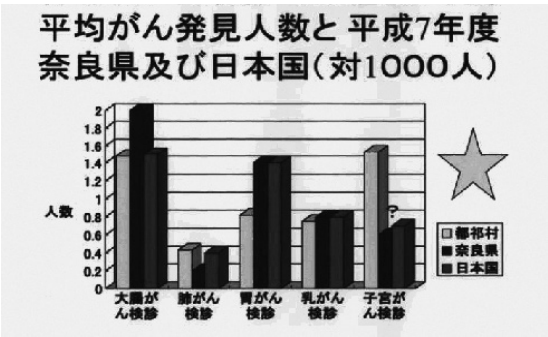
担任の先生の受験指導のお言葉「偏差値が足りませんよ」が苦しいテスト中に呪文のように聞こえてきましたが、希望校 (奈良県立医大＝万葉集にも歌われたこの地域で生活してみたいなとの希望) は、願書締め切り時の新聞報道では倍率 40 倍程でしたが、なんとか合格出来ました。田舎での学生生活が始まりましたが、大阪や京都に近く交通の便も良いこともあり少しずつ新しい家が建ち団地も出来てきました。

地域医療あるいは先端医療を目指して医局に入り、医局での研究の傍ら出先の医療機関でも医者として勤務していました。平成 5 年からは大学の医局人事で人口 7000 人弱の都祁村立国民健康保険直営診療所兼保健センター所長として勤務することになりました。常勤医師は 1 人であり診療所内に住み込みで地域医療をしようと思っておりましたが、村に住み込んで仕事をしておられた前々と前所長の 2 人の医師が 2 年程の勤務で次々と退職された状況等、地域の医療状況 (例えば医師の適正配置等) を熟知している看護師達職員に住み込みは反対されました。

そのため片道 45 分程運転して通勤することになりました。田舎のことですから広くて空気はきれいであり、村民の皆さま方は農業等以外にもゲートボール・グランドゴルフ等運動をして健康に気をつけて日々を過ごしておられ、心筋梗塞や脳卒中等の循環器疾患はほとんど見られませんでした。そのため、私は癌死を無くし「健康寿命日本一の健康的な村づくり」を目指して、平成 5 年から平成 24 年まで診療所と保健センターの兼任所長として常勤医師 1 人で健診にも力を注ぎ頑張りました。

施設全景；左が診療所・右が保健センター、奥に名阪国道





インターネットのホームページに村での癌発見についてのデータをアップしていたこともあります。そのためか、平成 19 年 (2007 年) に大阪で開催された第 27 回日本医学会総会オープニングセレモニーの案内状が届き参加したこともあります。

こうして、私が地域医療に明け暮れている間に、他の分野と同様に遺伝子研究の分野も発展してきました。例えば、ブタのインスリンを改良して使用されていましたが、1980 年代に大腸菌を利用した遺伝子組み換えヒトインスリンが登場して普及してきました。人体の膵臓の β ―細胞に発現しているインスリン製造用遺伝子を大腸菌内に組み込み、大腸菌がインスリンを製造するように技術開発をしたのです。そのため純度の高い副作用の少ないインスリンを大量に製造できるようになりました。このことは私には大変な驚きでした。

DNA の二重らせん構造はワトソンとクリックが 1953 年に発見し、学生の頃から私達が聞き慣れた分子生物学の概念です。「DNA とは遺伝子を構成しているものだな・眼に見えないものをどうやって発見したのかな?」とは思いましたが、それについての研究をしよう等とは全く思いつきませんでした。

一方、セントラルドグマとはクリックが 1958 年に提唱した「遺伝情報は、DNA → (転写) → mRNA → (翻訳) → - タンパク質の順に伝達される」と言う概念で分子生物学の中心原理であり「細菌から人まで、原生生物・真核生物の両方に共通する基本原理だ」とウイキペディアに記載されています。

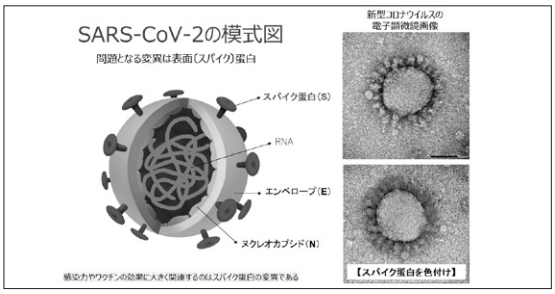
DNA 配列を読み出すことができる解析装置 (シーケンサー) は、2 回ノーベル賞を受賞したフレデリック・サンガーによって 1970 年代に発明されました。近年、遺伝子の研究は飛躍的に発展して来ました。ウイルスも DNA や RNA の遺伝子を持っていますが、数十億年前からの生命の誕生・進化・突然変異等において、紫外線等の影響の外に、ウイルスの DNA や RNA が他の生物の体細胞への影響 (発癌等) を含め生殖細胞・受精卵にも入り込んでその後の生物の進化に影響を与えてきただろうと想像されます。

一方、入り込まれた細胞もそれに対抗して外敵を排除しようと無意識に工夫をしてきたと思われます。DNA の繰り返し配列を大腸菌で最初に発見したのは石野良純先生 (1987 年当時；大阪大学微生物病研究所に勤務) でした。類似の反復クラスター (DNA の繰り返し配列) がその他の真正細菌や古細菌で見つけられ、2002 年に CRISPR と命名されました。

2007 年にはバクテリオファージ (ウイルスの一種) に対する細菌の耐性獲得機能が実験的に証明され、DNA の繰り返し配列が原核生物における一種の獲得免疫系として働いていることが明らかになりました。2020 年に CRISPR-Cas9 をもちいたゲノム編集技術の開発でエマニュエル・シャルパンティエ氏とジェニファー・ダウドナ氏がそれぞれノーベル賞を受賞されました。

2020 年には新型コロナが流行し高齢者が重篤になりやすい病気だということがテレビ等で報道されるようになりました。近畿地区島根県人会 2019 年度総会で一緒に写真を撮影させていただいた梨田昌孝 (元プロ野球近鉄監督) さんが感染して入院されたという報道もありました。そのため、感染予防には神経質に注意を払うようになりました。テレビ報道などで巷を飛びかってきた COVID-19 PCR 検査とか mRNA ワクチン・変異株等と言う言葉を目にするようになりました。

地域で赤ちゃんからお年寄りまで種々の予防接種を長らく行ってきましたが、今回の新型コロナに対するワクチンは極短期間で作成された未知のワクチンであり、mRNA ワクチン等をどうやって作成するの?保存するの?輸送するの?いつからいつまでの期間、効果があるの?副作用はないの?等いろいろな疑問が湧いてきました。そのため DNA・RNA 等について改めて復習することが出来ました。



東京都健康安全研究センターで分離されたコロナウイルスデルタ株の透過型電子顕微鏡写真と模式

予防接種の現場では、医療従事者は私を含め先にワクチン接種を受けることが出来ましたので、マスクやアイガードを着用して接種希望者に接種しました。結果的にワクチンは著明に効果があり世の中が救われました。

2021 年度のラスカー賞 (アメリカのノーベル生理学・医学賞とも呼ばれています) に選ばれたカリコ氏とワイスマン氏は、人工合成した mRNA が体内に入っても免疫に異物と認識されずに体内で機能させる方法 (ウリジンのシュードウリジンへの置き換え) を発見して新型コロナワクチン「mRNA ワクチン」の開発に大きく貢献され、2022 年度のノーベル賞受賞の有力候補と思われます。mRNA ワクチン開発の技術を応用すれば今後の変異株や新種のウイルスへの対応あるいは新薬の開発等が飛躍的に発展するものと思います。

私のように地域医療に携わって人の健康と幸福に貢献していくことが大切なことは言うまでもありませんが、新型コロナワクチンの効果でも分かるように、有効な薬物やワクチン等を研究して開発に成功 (例；2012 年山中伸弥先生が体細胞を初期化して iPS 細胞を作成する技術、2015 年大村智先生が疥癬等に効果があるイベルメクチンの開発、2018 年本庶佑先生が免疫チェックポイント阻害因子の発見でノーベル賞受賞等) することが出来れば、私の様に地域医療に励むよりも、沢山の人の命を救い、社会に貢献出来るのだと改めて思いました。地域医療と基礎研究は相補的で依存的なものであり、日々の努力が必要であると思います。ますます医療が進歩して健康寿命が延伸していくことを願っています。

今年 1 月 16 日 (日) の近畿双松会宝塚歌劇鑑賞会翌日に、医療勤務者枠で 3 回目の予防接種を受けました。1 月 19 日出勤途中には、「担当しているグループホームの職員 2 名がコロナウイルス反応陽性」との情報を受け取りました。

N95 等の感染防護用具を装着して濃厚接触者と判断した入所者 2 名の鼻検体を採取し、濃厚接触者と判断した職員 1 名には病院まで出向いて検査を受けてもらいました。しかし、保健所の指導が入り、全員の検体を採取することになり 21 日には職員全員の唾液と入所者全員の鼻汁検体を採取しました。そのうち入所者 1 名の感染が追加になり新型コロナ対応病院に紹介状を作成しました。

私も妻も明日には呼吸困難の症状が出るのではないか等と心配していました。しかし、後期高齢者になったと言えども身体に基礎疾患は無く、飲酒以外は健康的に生活しており、予防注射も 3 回接種しておりますので、梨田元監督が重症になられた頃のような恐怖感はありませんでした。

家庭内での感染はやはりしやすいようで、感染した職員 2 人の家族もそれぞれ同様に感染されて隔離されているようでした。換気とマスク着用等での防御が大切だと改めて思いました。

「みんなちがって みんないい」

池田　喜美代 (19期)

20 歳の冬、松江に帰省していた私は、友人とお茶をして帰宅するところだった。友人と会うのが久しぶりだったこともあって話がはずみ、夕方になっていた。楽しい時間に少し気分が高揚していたのだろう、京店通りにさしかかったところで、辻占いのぼうっとした灯りに吸い寄せられるように近づき、左の手の平を差し出していた。

私は占いやおみくじのたぐいは嫌いだ。なんか気にしてしまうからいつも素通りする。けれど、あの時は違っていた。辻占いに言われたことの大半は忘れてしまったが、最後の「あなたは晩年が良くなりますよ」の言葉はずっと記憶の片隅に残っていた。

私には孫が 5 人いる。大阪の池田市に住む長男に 2 人、富山市に住む二男には 3 人、それぞれ個性豊かに育ってる。コロナになってから会うことが難しくなったが、その分家族 LINE で動画やメールが送られてくる。昨年も次々と楽しいニュースを届けてくれた。

8 月には、富山市の中 3 の孫 (長女) が、北信越中学校総合競技大会の女子 200 メートルに出場し僅差で 4 位になった。11 月には、小 6 の弟が、富山県小学生プログラミング大会の代表 12 人 (組) に選出され、堂々とプレゼンテーションと質疑応答をやってのけ、優秀賞を受賞した。小 3 の弟は、ときたま憶えたての英語を交えて電話をかけてきて驚かされる。

一方、池田市の中 1 の孫 (長女) は、12 月に大阪府私立中学校読書感想文コンクールで佳作に選ばれた。「みため」という表題で、選んだ課題図書は芥川龍之介「羅生門・鼻」という。小 5 の妹は、ｋ－ｐｏｐ好きでダンスが得意でとにかく明るい。

8 年前になる。8 月に父が亡くなり、私は父のことを書いて朝日新聞の「声」欄に投稿したら 9 月に掲載された。ほどなくして松江の従姉から「読んだよ」と連絡があり、さらに驚いたことに、大津市に住む北高の同窓生から同様のはがきをいただいた。そして末尾に「中学生の時に、あなたが読書感想文で表彰されたことを憶えていますよ」と添えられていた。彼女とは小中高と一緒だったが特に親しかったわけではなく、50 数年を経て当の本人の記憶もあいまいだったのに、私のことや読書感想文のことまで憶えていて便りまでくれるなんて、突然のことに戸惑ってしまったがすごく嬉しかった。

中 1 の孫の姿は当時の私のそれと重なるが、私の表題はあの頃ブームだった「愛と死をみつめて を読んで」だったので、孫の「羅生門・鼻」とは隔世の感がある。

LINE が届くたびに「やったね すごいね」と返信しているが、ただどの孫も結果として一番にはなれていないところが「何事もほどほどがいいとする私の孫らしいな」となんとなく納得する。でもそれは、孫には大変失礼な話でまだまだ伸びしろがあるということにしておこう。

私はもう少しすると晩年の域に入るのだろうか。私の手相は年月を経て皺も増え変化してきているはずだ。ただあの時の辻占いの一言「晩年は良くなりますよ」はずっと心に残って、落ち込んだ時も悩んだ時も「私の晩年は良くなる 良くなる」と繰り返し思うことで乗り越えてきた。いつしか、身近な孫たちがわくわくどきどき感を私にもたらしてくれていることもそのことではないかと思っている。今年も何かサプライズがあるかもしれない。

今は息子のふるさと納税の返礼品が届くとのことで、ご相伴にあずかることの楽しみが待っている。こちらの 5 品目は「みんなちがって みんなおいしい」

「認知症にならないためには？
―父の場合―　」

山嵜　麻里子（２０期）

年齢を重ねてくると、認知症が気になる人が多いのか「呆けない方法」とか「認知症にならないためには」といった類の本や記事をよく目にする。先日も、友人が「呆けないためには『①よくお喋りをする。②お金の管理をきちんとする。③異性に関心をもつ。』この３つが大切だと聞いた」と話してた。

でも、一概にそうと言えるだろうか？　102 歳で亡くなった父は、年齢の割りに頭がしっかりしていたが、巷で言われているようなことには当てはまらない人だった。口下手で、人とコミュニケーションをとるのが苦手。一人でいるのが好きな人だった。でも、改めて父を思い返してみると、思い当たることが幾つかある。

一つは旺盛な知識欲。活字が大好きで本の虫。とにかく、本ばかり読んでいた。あらゆるジャンルの本を読み。父に聞いても知らないことはないほどだった。生前、「わしから本を取ったら『死ね』ということと同じだ。」と話していた。100 歳前後から、入退院を繰り返していたが、活字が恋しかろうと病院内で新聞の配達を頼んだ。「100 歳になっても、ベッドで新聞を読んでいる木村さん (父の名前) を見て驚いた。」と主治医が後々語っていた。

二つ目は飽くなき好奇心。運転免許は 17 歳のときに取得。今から 90 年近く前の話で、当時運転免許証を持っている人はほとんどいなかったと聞く。私達子どもが生まれてからは、カメラにはまり、押し入れに暗室を作り私達の写真を現像していた。ワープロにも、いち早く飛びつき、文字や手紙はワープロで打っていた。

語学に関心をもち、満鉄にいた頃はロシア語の通訳みたいなことをしていたらしい。帰国してからも、コツコツと机に向かって勉強していたのを覚えている。そのうちに「もう、ロシア語は卒業した。」と英語に切り替え、家庭教師を頼んで勉強していたが、話すのを聞いたことがないので、はてさてどこまでの実力だったのか。

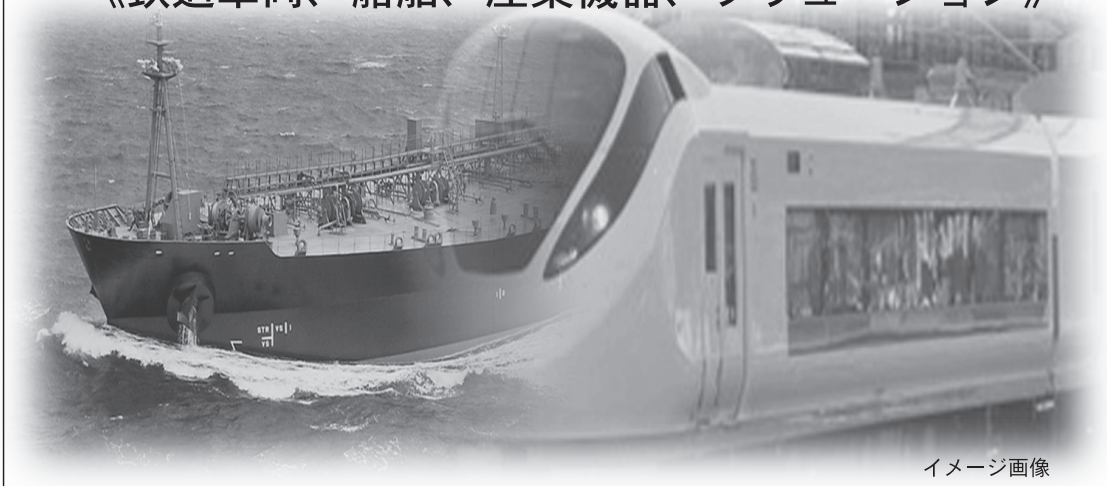
母が危篤のときはずっと付き添っていたが、そのときも本を手にしていた。題名は『気象予報士になるためには』。「エーッ、お父さん、何でこの本を読んでいるの?」と聞いたら、「気象予報士になりたいのうと思って。」と宣もうた。父 95 歳のときである。

三つ目は人間愛。人付き合いは悪いが、穏やかでユーモアのある人だった。いつも、口にするのは「有難う。」という感謝の言葉。

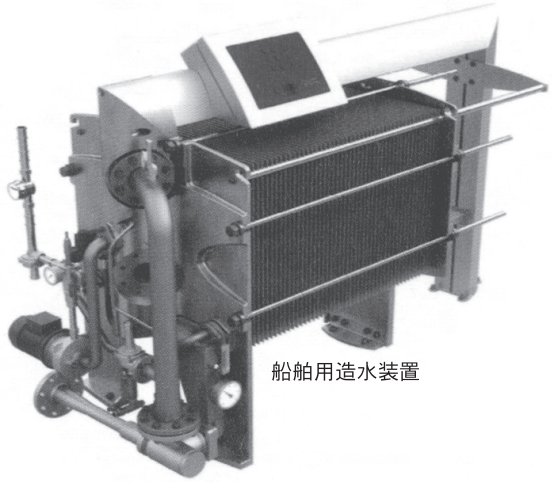
泣き言や愚痴は言わなかった。病院に入院すると、看護師さん達が「木村さんが来た! お帰りなさい!」と手を叩き、退院すると施設の人達が「お帰りなさい!」と喜んだ。昔は、短気であまり喋らない父を敬遠していたが、どこで変身したのだろうか？　父は、いつの間にかアイドルになっていた。

私は、顔も性格も父とは全然違うと思っていたが、最近何となく父に似てきたと感じるようになってきた。だとしたら、私も晩年まで頭がクリアかも。父がいつも本を入れて持ち歩いていたショルダーバッグを撫でながら、そんなことを考えている。

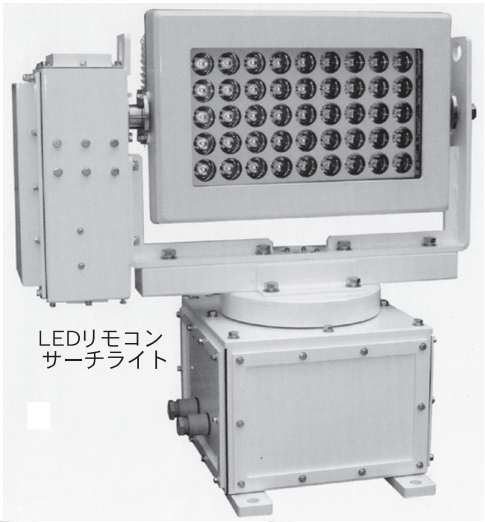
《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》



イメージ画像



船舶用造水装置



LEDリモコン
サーチライト

鉄道車両運転台

株　式　会　社
トーヨーコーポレーション
TOYO & ENGINEERING CORP.
松江高校7期卒　山本雅昭
本　　社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35　Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736
東京支店・豊中工場

©Gestaltung：K.Raum

編集後記

去年の秋口、残念ながら二年連続での総会・懇親会の中止を決めた時、一年前と同様、「会報」だけはつくりたいと思い、皆様にご投稿のお願いをしたところ、多くの方からご協力をいただきました。本当に“だんだん だんだん”でした。この会報が皆様の“元気づくり”に少しでもお役に立ちますことを心から願っております。

当会も来年は「設立 65 周年」の記念の年・・、今年はその前の 64 年目、感染も終息して三年ぶりの総会・懇親会がなんとか開催できますことを皆様とともに祈りたいと思います。

編集をしていて、母校創立 145 周年講演での清原島根県立大学学長の「世界の人は、同時に地域の人としてのアイデンティティを持たねばならぬ」とのご高見には、同期だからではありませんがハタと膝を打ちました。尤も、もはや流石に世界に雄飛することまではできない年齢の私には「脚下照顧」が精一杯だな、と思いましたが・・。

なお、この会報には掲載できませんでしたが、5 期の板垣衛武様からご労作の著書「長崎浦四番崩れ」(㈱ 22 世紀アート発行）を事務局にご恵贈いただきました。双松会大先輩の永井隆博士の足跡に啓発されてとのことですが、心から御礼申し上げます。

今、毎日、報道されているウクライナの悲劇には言葉もありません。一日も早く、罪のない人々がこれ以上の惨禍から免れることができますよう祈りながら、編集を終わります。

2022.3.25　松本耕司（16 期、編集担当）

この会報を入手ご希望の場合、またご質問については下記までご連絡ください。
近畿双松会専用アドレス：master@kinki-soushoukai.org

近畿双松会報

2021（令和 3）年度版

通巻 63 号

発行日／令和 4 年 4 月 10 日
発行者／近畿双松会
所在地／〒 550-0002
大阪市西区江戸堀 1 - 21 - 35
㈱トーヨーコーポレーション内
TEL. 06 - 6443 - 2062
FAX.06 - 6443 - 9736
郵便振替口座／ 00910 - 0 - 103665
近畿双松会
印　刷／（株）三星社
〒 532-0005
大阪市淀川区三国本町 2 - 1 - 7
TEL.06 - 6392 - 0191

ホームページ

メールマガジン
登録（P14参照）

LINE@
登録（P14参照）

近畿双松会の歴史

近畿双松会の創設は大正末期にも遡ると言われ、以来、近畿在住の旧制松江中学校卒業生有志により毎年会合を催し親睦がはかられてきました。戦争により活動は一時中断されましたが、昭和33（1958）年に再設立され、その後、新制の松江高等学校・後継の松江北高等学校卒業生の同窓会と統合。平成30（2018）年には設立60周年を迎え、歴史と伝統を伝えて"新しい時代"に向かいます。